J-BIM 施工図CAD

RC躯体図Q&A編

Q1 オリジナルの記号を作成するには ＿＿＿＿＿ 2

（参考資料）記号一覧 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 8

Q2 部材リストを別の物件で利用するには ＿＿＿ 14

Q3 R の躯体・壁開口を入力するには＿＿＿＿＿ 16

Q4 セットバックした躯体を入力するには ＿＿＿ 21

Q5 オリジナルの図面枠を作成するには＿＿＿＿ 24

Q6 見上図と断面図を合成するには ＿＿＿＿＿ 29

Q7 段差スラブを入力するには ＿＿＿＿＿＿ 34

Q8 合成スラブを入力するには ＿＿＿＿＿＿ 36

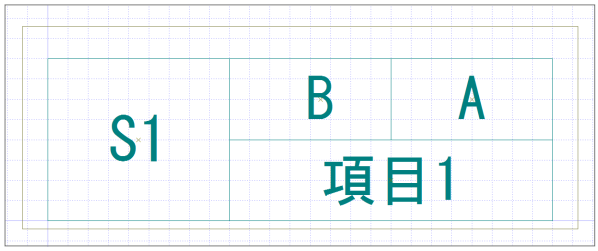
Q9 増し打ちを入力するには＿＿＿＿＿＿＿ 38

Q10 打設順を考慮して境界型枠を積算するには ＿＿ 40

Q11 打設レベルごとに基礎を積算するには ＿＿＿ 42

Q1 オリジナルの記号を作成するには

施工図で作図する各部材の記号は、「記号マスタ」で登録・編集することができます。
ここではRCスラブの記号を例に、オリジナルの記号を作成する方法を解説します。

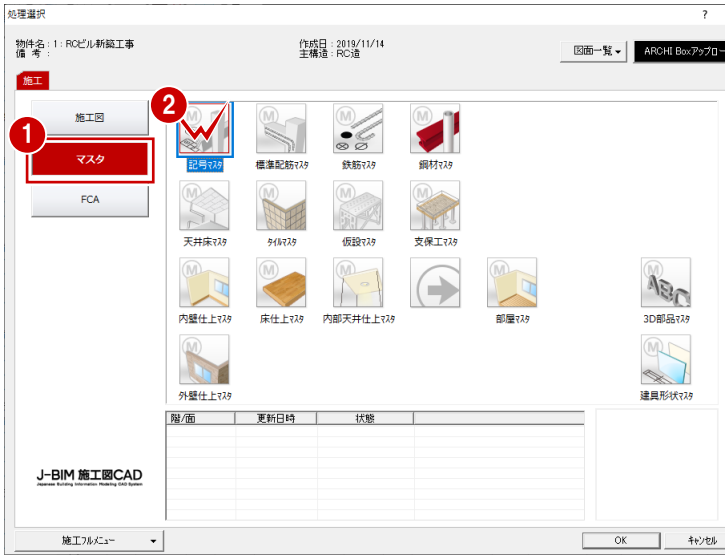


【完成図】

記号マスタを開く

❶「処理選択」ダイアログで「マスタ」をクリックします。

❷「プログラム一覧」で「記号マスタ」をダブルクリックします。



既存の記号を複写する

まず、標準で登録されている記号の中から、作成する記号に近いタイプを複写しましょう。

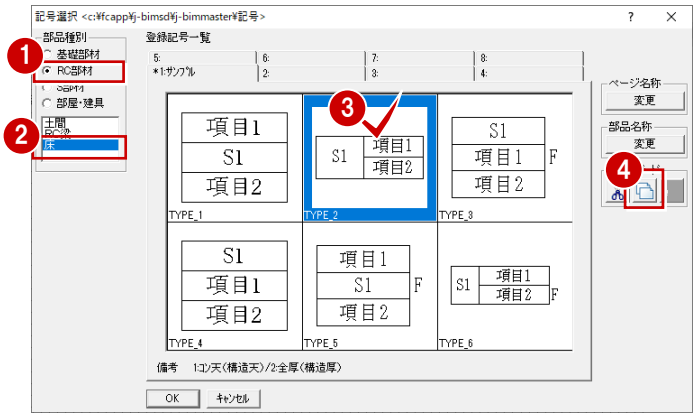
記号のコピー

❶「RC 部材」にチェックを入れます。

❷「床」を選びます。

❸ 複写したい記号（ここでは「TYPE_2」）をクリックします。

❹「コピー」をクリックします。



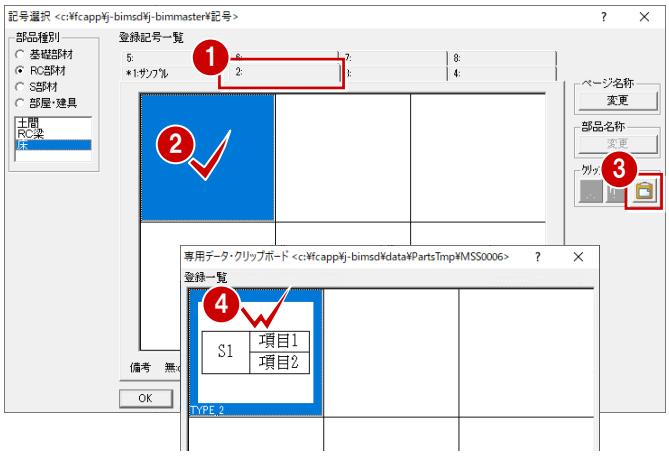
記号の貼り付け

❶「2：」タブをクリックします。

❷ 未登録欄をクリックします。

❸「貼り付け」 をクリックします。

❹ 複写する記号をダブルクリックします。
記号が複写されます。



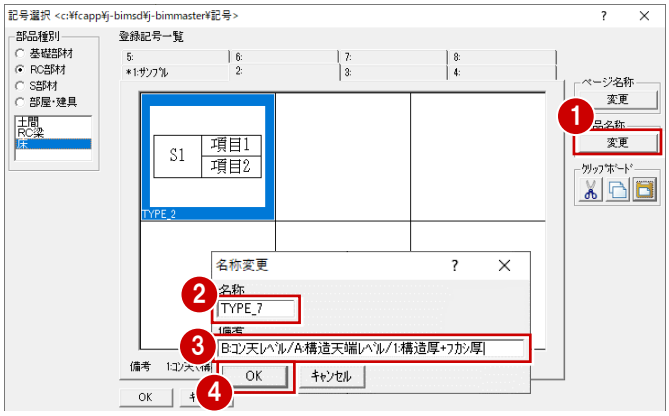
名称・備考の変更

❶ 「部品名称」の「変更」をクリックします。

❷ 「名称」の内容を「TYPE_7」に変更します。

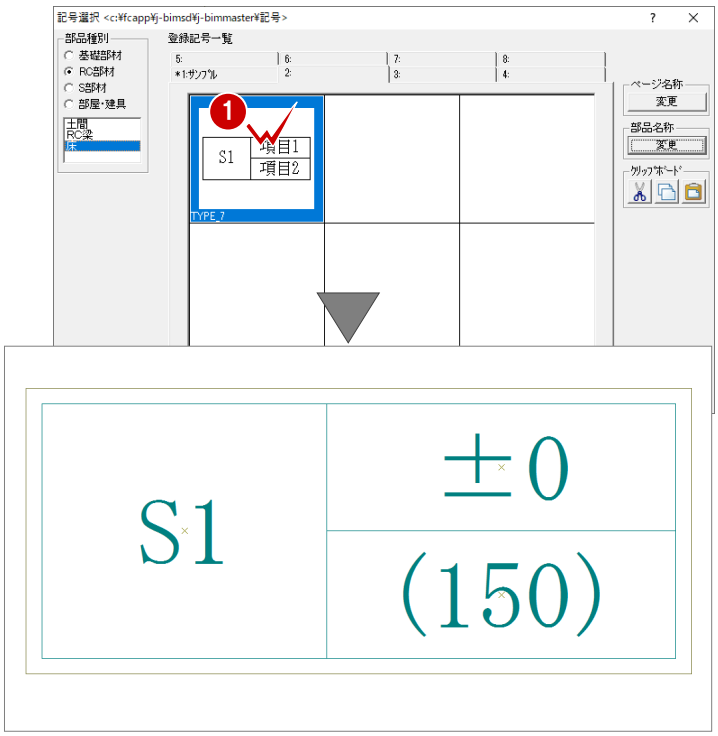
❸ 「備考」の内容を「B:ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ/A:構造天端ﾚﾍﾞﾙ/1:構造厚+ﾌｶｼ厚」に変更します。

❹ 「OK」をクリックします。



ウィンドウを開く

❶ 一覧で記号をダブルクリックします。



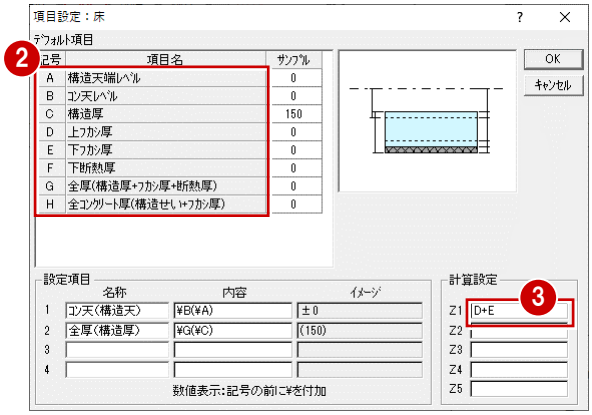
記号枠を設定する

記号項目として用意されている項目を確認して、足りない項目を設定しましょう。

❶ 「設定」をクリックします。

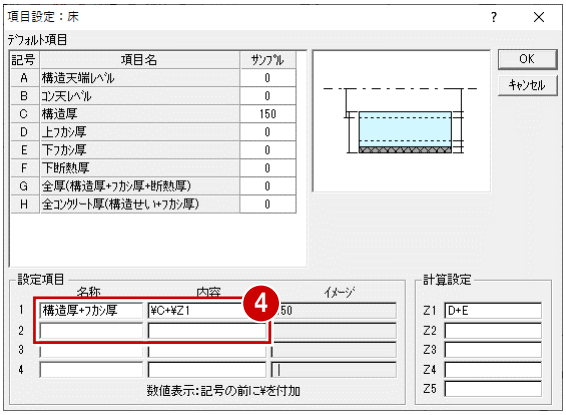
❷ 「デフォルト項目」を確認します。
ここで必要な項目の「A：構造天端ﾚﾍﾞﾙ」「B：ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ」「C:構造厚」は、デフォルト項目に用意されていることがわかります。
「ﾌｶｼ厚」は「D:上ﾌｶｼ厚」＋「E:下ﾌｶｼ厚」で求められるので、計算式を使って項目を作ります。

❸ 「計算設定」の「Z1: 」に「D+E」と入力します。



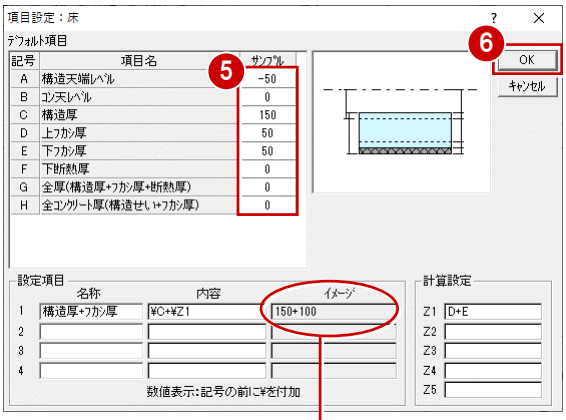
「構造厚+ﾌｶｼ厚」という専用の項目を作ります。

❹ 「設定項目」の「1」の「名称」に「構造厚+ﾌｶｼ厚」と入力し、「内容」に「¥C+¥Z1」と入力します。
また「2」の項目は必要ないため、「名称」と「内容」を消しておきます。



❺ 「デフォルト項目」の「サンプル」に適当な値を入力して、「イメージ」で数値が正しく表示されるか確認します。

❻ 設定ができたら「OK」をクリックします。



入力画面で記号項目のイメージを確認するときも「サンプル」で入力した値が表示されるため、使用する項目はここで数値を入力しておきましょう。

記号枠を編集する

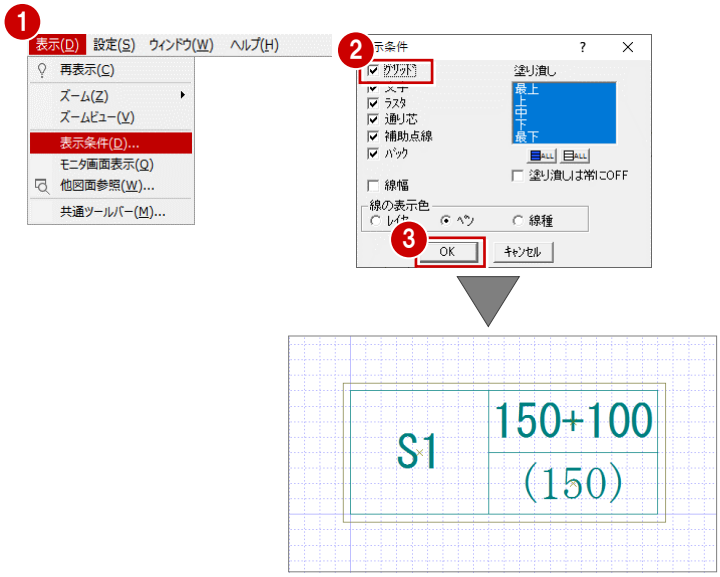
右側の上の段に記号項目を2つ配置できるように記号枠を編集しましょう。
ここでは、編集する際の基準となるように、グリッドを表示して操作します。

グリッドの表示

❶ 「表示」メニューから「表示条件」を選びます。

❷ 「グリッド」のチェックを ON にします。

❸ 「OK」をクリックします。
CAD 画面にグリッドが表示されます。



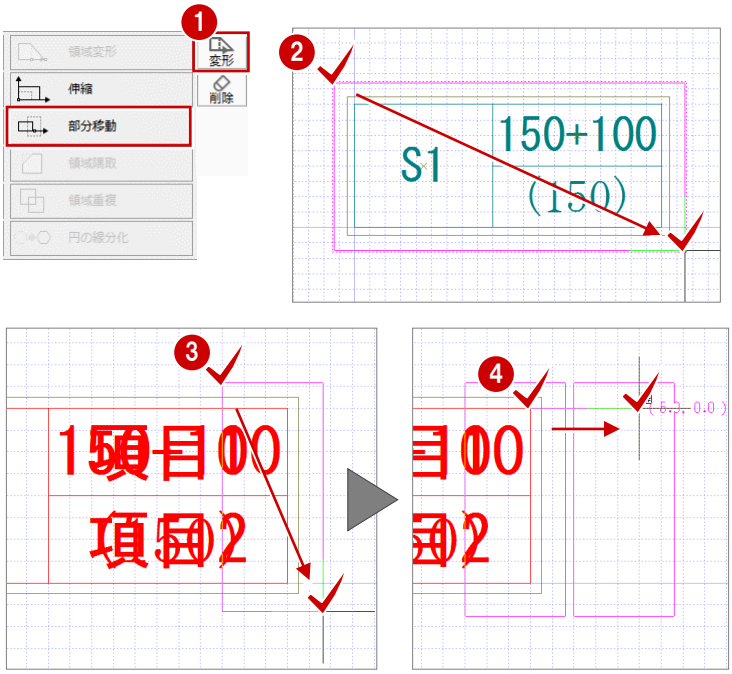
記号枠の拡幅

❶ 「変形」メニューから「部分移動」を選びます。

❷ 範囲を指定して記号枠を選択します。

❸ 移動する範囲を指定します。

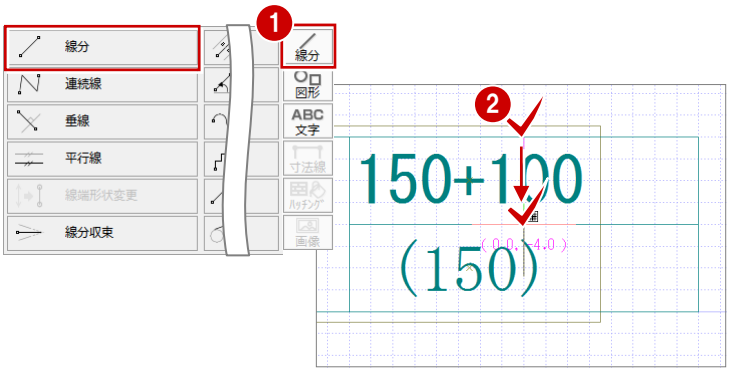
❹ 基準点と移動先をクリックします。



線分の追加

❶ 「線分」メニューから「線分」を選択します。

❷ 線分の始点と終点をクリックします。



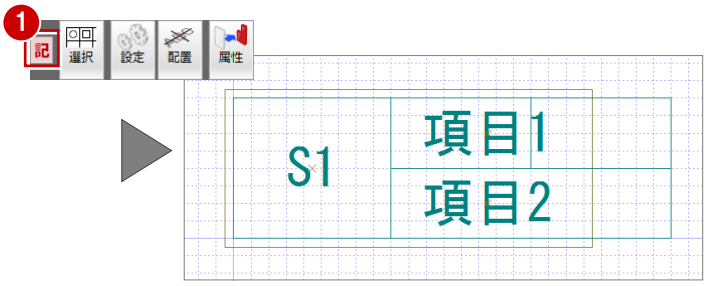
記号項目を配置する

元データに配置されていた記号項目を確認して、項目を配置し直しましょう。

記号表示に切り替え

❶ 「記号/数値表示切替」をクリックします。

※ どのような記号項目が配置されているか確認するときは、記号表示に切り替えます。図面に表示される記号のイメージを確認するときは、再度クリックして数値表示に戻します。



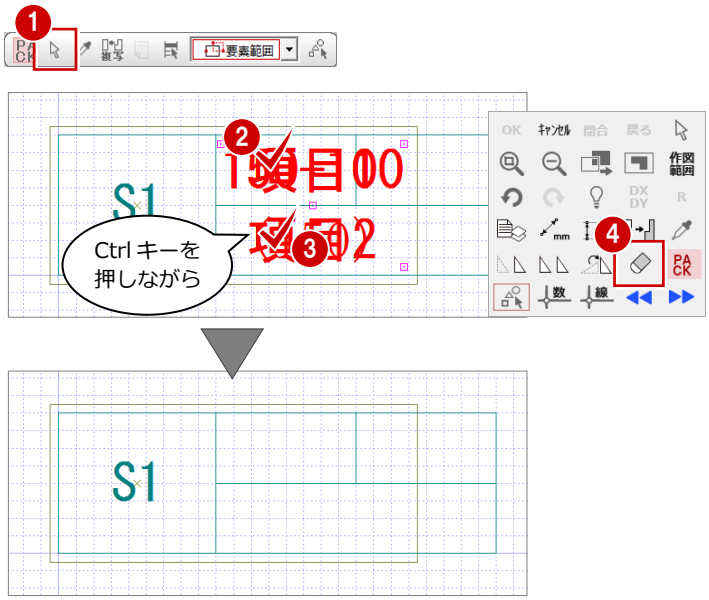
不要な記号項目の削除

❶ 「対象データ選択」をクリックします。

❷ 「項目 1」をクリックします。

❸ Ctrl キーを押しながら「項目 2」をクリックして項目を複数選択します。

❹ 右クリックして、ポップアップメニューから「削除」を選びます。

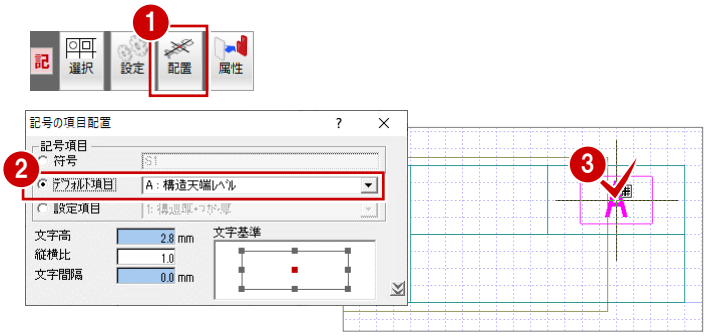


記号項目の配置

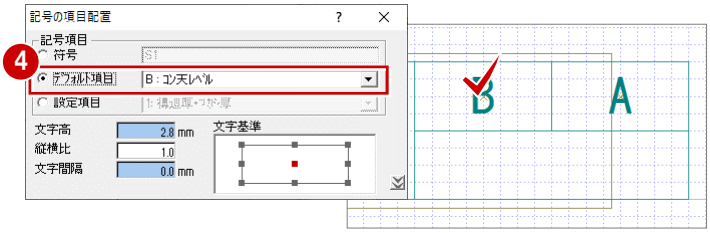
❶ 「配置」をクリックします。

❷ 「デフォルト項目」のチェックを ON にして、
「A:構造天端ﾚﾍﾞﾙ」を選びます。

❸ 配置位置をクリックします。

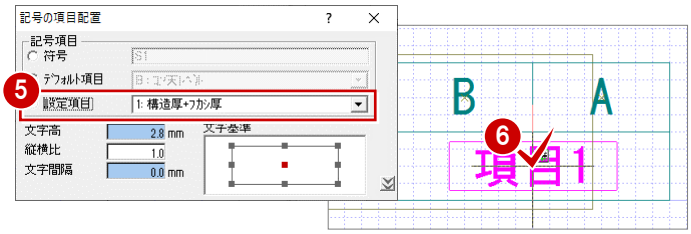


❹ 同様にして「B:ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ」を配置します。



❺ 「設定項目」のチェックを ON にして、「1:構造厚＋ﾌｶｼ厚」が選択されていることを確認し、配置します。

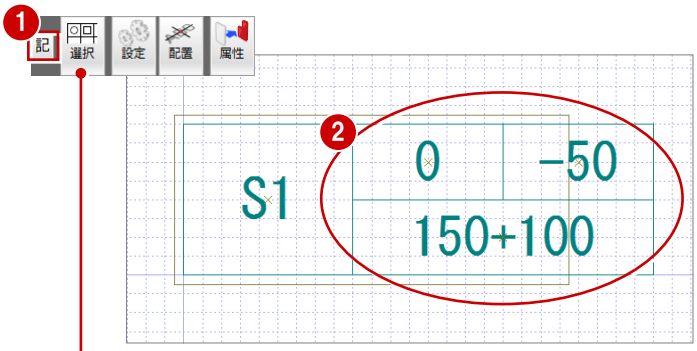
❻ 配置位置をクリックします。



数値表示に切り替え

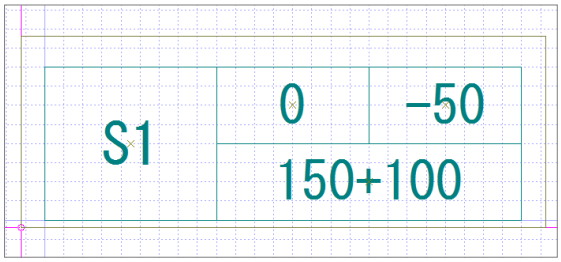
❶ 「記号/数値表示切替」をクリックします。

❷ サンプルの数値が記号枠から出ていないかなどを確認します。



※ 続けて別の記号を作成するには、「選択」をクリックして「記号選択」ダイアログを開きます。
以降の操作は「既存の記号を複写する」からになります。

記号が作成できたら、作図範囲を設定して、データを保存しておきましょう。

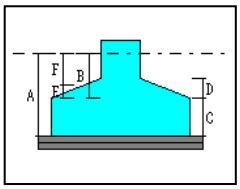


（参考資料）記号一覧

標準で用意されている各部材の記号は以下の通りです。

「基礎部材」

▼ 独立基礎

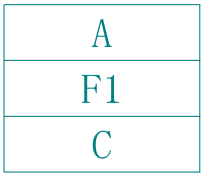


記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	基礎下端ﾚﾍﾞﾙ	-1300
B	ﾌｰﾁﾝｸﾞ天端ﾚﾍﾞﾙ	-700
C	ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚	600
D	ﾊﾝﾁ高	200
E	上ﾌｶｼ厚	200
F	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	-500

TYPE_1

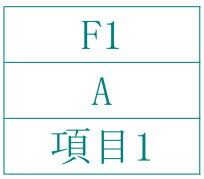
F1：独立基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
C：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_2



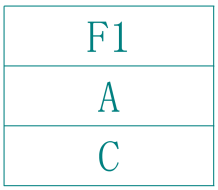
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
F1：独立基礎記号
C：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_3



F1：独立基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

TYPE_4

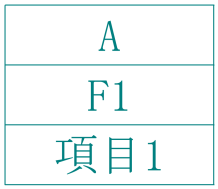


F1：独立基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
C：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_5

F1：独立基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

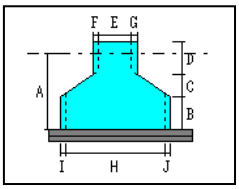
TYPE_6



A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
F1：独立基礎記号
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

「基礎部材」

▼ 連続基礎

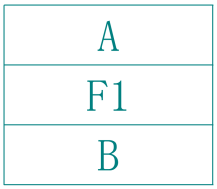


記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	基礎下端ﾚﾍﾞﾙ	-1200
B	ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚	400
C	ﾊﾝﾁ高	200
D	立上り高	600
E	立上り幅	300
F	左ﾌｶｼ厚	50
G	右ﾌｶｼ厚	50
H	ﾌｰﾁﾝｸﾞ幅	900
I	ﾌｰﾁﾝｸﾞ左ﾌｶｼ厚	50
J	ﾌｰﾁﾝｸﾞ右ﾌｶｼ厚	50

TYPE_1

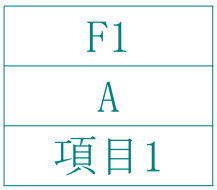
F1：連続基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
B：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_2



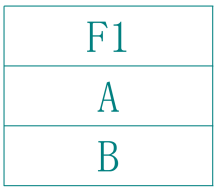
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
F1：連続基礎記号
B：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_3



F1：連続基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

TYPE_4

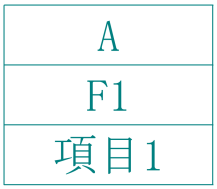


F1：連続基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
B：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚

TYPE_5

F1：連続基礎記号
A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

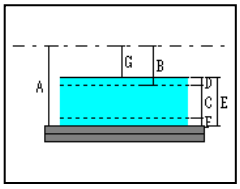
TYPE_6



A：基礎下端ﾚﾍﾞﾙ
F1：連続基礎記号
項目１：ﾌｰﾁﾝｸﾞ厚＋ﾊﾝﾁ高

「基礎部材」

▼ べた基礎



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	下端ﾚﾍﾞﾙ	-1200
B	構造天端レベル	-900
C	構造厚	250
D	上ﾌｶｼ厚	50
E	全厚(構造厚+ﾌｶｼ厚)	300
F	下ﾌｶｼ厚	0
G	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	0

TYPE_1

FS1：べた基礎記号
A：下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：全厚（構造厚）

TYPE_2

A：下端ﾚﾍﾞﾙ
FS1：べた基礎記号
項目１：全厚（構造厚）

TYPE_3

FS1：べた基礎記号
A：下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：構造厚＋上ﾌｶｼ厚

TYPE_4

FS1：べた基礎記号
A：下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：全厚（構造厚）

TYPE_5

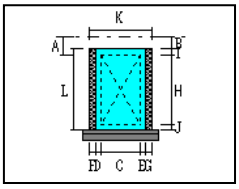
FS1：べた基礎記号
A：下端ﾚﾍﾞﾙ
項目１：構造厚＋上ﾌｶｼ厚

TYPE_6

A：下端ﾚﾍﾞﾙ
FS1：べた基礎記号
項目１：構造厚＋上ﾌｶｼ厚

「基礎部材」

▼ 基礎梁



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	構造天端ﾚﾍﾞﾙ	0
B	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	0
C	構造幅	400
D	左ﾌｶｼ厚	0
E	右ﾌｶｼ厚	0
F	左断熱厚	0
G	右断熱厚	0
H	構造せい	700
I	上ﾌｶｼ厚	0
J	下ﾌｶｼ厚	0
K	全幅(構造幅+ﾌｶｼ幅+断熱幅)	400
L	全せい(構造せい+ﾌｶｼ厚)	0
M	ﾊﾝﾁ長	0
N	ﾊﾝﾁ幅(端部)	0
O	ﾊﾝﾁせい(端部)	0
P	全ｺﾝ幅(構造幅+ﾌｶｼ幅)	0
Q	ﾊﾝﾁ全ｺﾝ幅(構造幅+ﾌｶｼ幅)	0
R	ﾊﾝﾁ全ｺﾝせい(構造せい+ﾌｶｼ厚)	0

TYPE_1

項目２：全幅（構造幅）
FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目３：全せい（構造せい）

TYPE_2

項目２：全幅（構造幅）
FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目３：全せい（構造せい）

TYPE_3

項目２：構造幅+ﾌｶｼ
FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目３：構造せい＋ﾌｶｼ

TYPE_4

FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目２：全幅（構造幅）
×全せい（構造せい）

TYPE_5

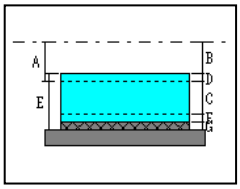
項目２：左ﾌｶｼ＋構造幅
＋右ﾌｶｼ
FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目３：上ﾌｶｼ＋構造せい
＋下ﾌｶｼ

TYPE_6

項目２：左ﾌｶｼ＋構造幅
＋右ﾌｶｼ
FG1：基礎梁記号
項目１：ｺﾝ天（構造天）
項目３：上ﾌｶｼ＋構造せい
＋下ﾌｶｼ

「RC 部材」

▼ 土間



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	構造天端ﾚﾍﾞﾙ	0
B	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	0
C	構造厚	150
D	上ﾌｶｼ厚	0
E	全厚(構造厚+ﾌｶｼ厚+断熱厚)	0
F	下ﾌｶｼ厚	0
G	下断熱厚	0
H	全ｺﾝ厚(構造厚+ﾌｶｼ厚)	0

TYPE_1

項目 1：ｺﾝ天（構造天）
DS1：土間記号
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_2

DS1：土間記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_3

DS1：土間記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：構造厚＋ﾌｶｼ

TYPE_4

DS1：土間記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_5

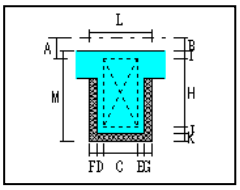
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
DS1：土間記号
項目 2：構造厚＋ﾌｶｼ

TYPE_6

DS1：土間記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：構造厚＋ﾌｶｼ

「RC 部材」

▼ RC 梁



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	構造天端ﾚﾍﾞﾙ	0
B	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	0
C	構造幅	400
D	左ﾌｶｼ厚	0
E	右ﾌｶｼ厚	0
F	左断熱厚	0
G	右断熱厚	0
H	構造せい	700
I	上ﾌｶｼ厚	0
J	下ﾌｶｼ厚	0
K	下断熱厚	0
L	全幅(構造幅+ﾌｶｼ幅+断熱幅)	0
M	全せい(構造せい+ﾌｶｼ厚+断熱厚)	0
N	ﾊﾝﾁ長	0
O	ﾊﾝﾁ幅(端部)	0
P	ﾊﾝﾁせい(端部)	0
Q	全ｺﾝ幅(構造幅+ﾌｶｼ厚)	0
R	全ｺﾝせい(構造せい+ﾌｶｼ厚)	0
S	ﾊﾝﾁ全ｺﾝ幅(構造幅+ﾌｶｼ幅)	0
T	ﾊﾝﾁ全ｺﾝせい(構造せい+ﾌｶｼ厚)	0

TYPE_1

項目 2：全幅（構造幅）
G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 3：全せい（構造せい）

TYPE_2

項目 2：全幅（構造幅）
G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 3：全せい（構造せい）

TYPE_3

項目 2：構造幅＋ﾌｶｼ
G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 3：構造せい＋ﾌｶｼ
F：左断熱厚　G：右断熱厚
K：下断熱厚

TYPE_4

G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：全幅（構造幅）
　　×全せい（構造せい）

TYPE_5

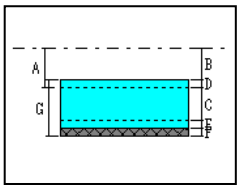
項目 2：左ﾌｶｼ＋構造幅＋右ﾌｶｼ
G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 3：上ﾌｶｼ＋構造せい＋下ﾌｶｼ
F：左断熱厚　G：右断熱厚
K：下断熱厚

TYPE_6

項目 2：左ﾌｶｼ＋構造幅＋右ﾌｶｼ
G1：RC 梁記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 3：上ﾌｶｼ＋構造せい＋下ﾌｶｼ
F:左断熱厚　G：右断熱厚
K：下断熱厚

「RC 部材」

▼ 床



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	構造天端ﾚﾍﾞﾙ	0
B	ｺﾝ天ﾚﾍﾞﾙ	0
C	構造厚	150
D	上ﾌｶｼ厚	20
E	下ﾌｶｼ厚	20
F	下断熱厚	20
G	全厚(構造厚+ﾌｶｼ厚+断熱厚)	210
H	全ｺﾝｸﾘｰﾄ厚(構造せい+ﾌｶｼ厚)	0

TYPE_1

項目 1：ｺﾝ天（構造天）
S1：床記号
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_2

S1：床記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_3

S1：床記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：上ﾌｶｼ＋構造厚
＋下ﾌｶｼ
F：下断熱厚

TYPE_4

S1：床記号
項目 1：ｺﾝ天(構造天)
項目 2：全厚（構造厚）

TYPE_5

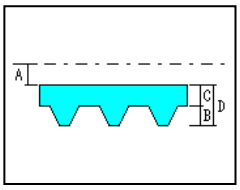
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
S1：床記号
項目 2：上ﾌｶｼ＋構造厚
＋下ﾌｶｼ
F：下断熱厚

TYPE_6

S1：床記号
項目 1：ｺﾝ天（構造天）
項目 2：上ﾌｶｼ＋構造厚
＋下ﾌｶｼ
F：下断熱厚

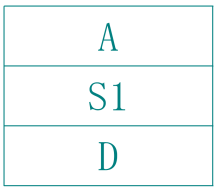
「S 部材」

▼ デッキプレート



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	構造天端ﾚﾍﾞﾙ	0
B	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ高	50
C	山上ｺﾝｸﾘｰﾄ厚	80
D	合成ｽﾗﾌﾞ厚	130

TYPE_1



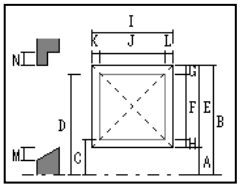
A：構造天端ﾚﾍﾞﾙ
S1：ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ記号
D：合成ｽﾗﾌﾞ厚

TYPE_2

S1：ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ記号
A：構造天端ﾚﾍﾞﾙ
D：合成ｽﾗﾌﾞ厚

「部屋・建具」

▼ 壁開口



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	開口下端ﾚﾍﾞﾙ	840
B	開口上端ﾚﾍﾞﾙ	2160
C	建具下端ﾚﾍﾞﾙ	900
D	建具上端ﾚﾍﾞﾙ	2100
E	開口高	1320
F	建具高	1200
G	上端逃げ	60
H	下端逃げ	60
I	開口幅	1620
J	建具幅	1500
K	左逃げ	60
L	右逃げ	60
M	水勾配	0
N	だきの出(上)	0
O	だきの出(下)	0

TYPE_1

E：開口高
AW1：壁開口記号
A：開口下端ﾚﾍﾞﾙ

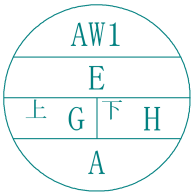
TYPE_2

AW1：壁開口記号
A：開口下端ﾚﾍﾞﾙ
E：開口高

TYPE_3

A：開口下端ﾚﾍﾞﾙ
AW1：壁開口記号
E：開口高

TYPE_4



AW1：壁開口記号
E：開口高
G：上端逃げ
H：下端逃げ
A：開口下端ﾚﾍﾞﾙ

TYPE_5

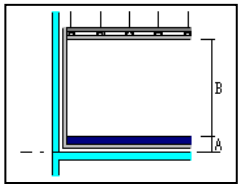
AW1：壁開口記号

TYPE_6

AW1：壁開口記号
項目 1：開口幅×開口高
A：開口下端ﾚﾍﾞﾙ

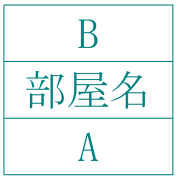
「部屋・建具」

▼ 部屋



記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	床仕上高	+20
B	天井高	2500

TYPE_1



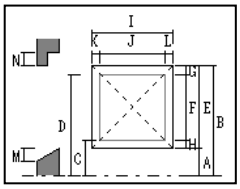
B：天井高
部屋名：部屋名称
A：床仕上高

TYPE_2

項目 2：天井高
部屋名：部屋名称
項目 1：床仕上高

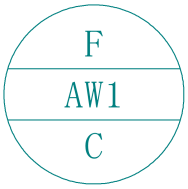
「部屋・建具」

▼ 建具



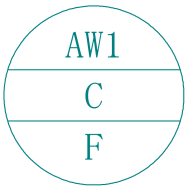
記号	項目名	ｻﾝﾌﾟﾙ
A	開口下端ﾚﾍﾞﾙ	840
B	開口上端ﾚﾍﾞﾙ	2160
C	建具下端ﾚﾍﾞﾙ	900
D	建具上端ﾚﾍﾞﾙ	2100
E	開口高	1320
F	建具高	1200
G	上端逃げ	60
H	下端逃げ	60
I	開口幅	1620
J	建具幅	1500
K	左逃げ	60
L	右逃げ	60
M	水勾配	0
N	だきの出(上)	0
O	だきの出(下)	0

TYPE_1



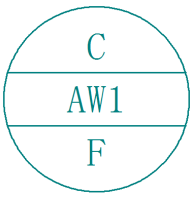
F：建具高
AW1：壁開口記号
C：建具下端ﾚﾍﾞﾙ

TYPE_2



AW1：壁開口記号
C：建具下端ﾚﾍﾞﾙ
F：建具高

TYPE_3



C：建具下端ﾚﾍﾞﾙ
AW1：壁開口記号
F：建具高

TYPE_4

AW1

AW1：壁開口記号

Q2 部材リストを別の物件で利用するには

登録した部材リストを別の物件で利用するには、対象のリストをマスタに書き込んでおき、新規物件作成時にマスタからリストを読み込みます。

リストを書き込む

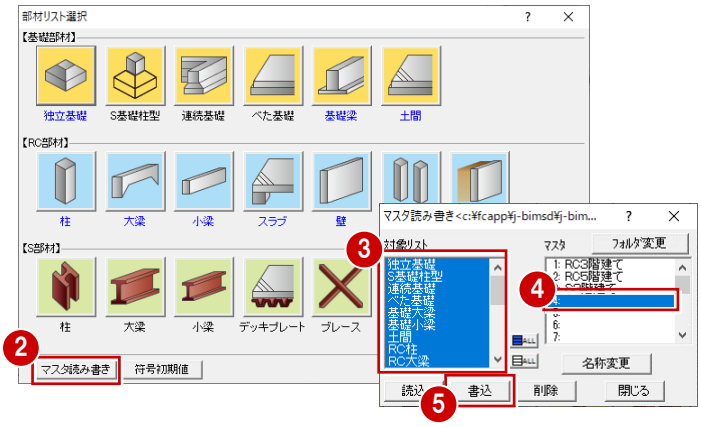
❶ 部材リストを登録した物件を開き、「処理選択」ダイアログの「リスト登録」をダブルクリックします。

❷ 「マスタ読み書き」をクリックします。

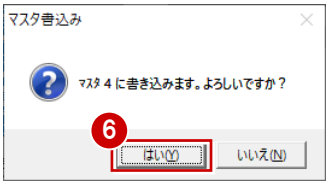
❸ 「対象リスト」で書き込む部材を選択します。
対象から外したい部材は、クリックして選択状態を解除します。

❹ 「マスタ」の未登録欄をクリックします。

❺ 「書込」をクリックします。

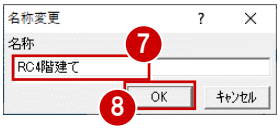


❻ 確認画面で「はい」をクリックします。

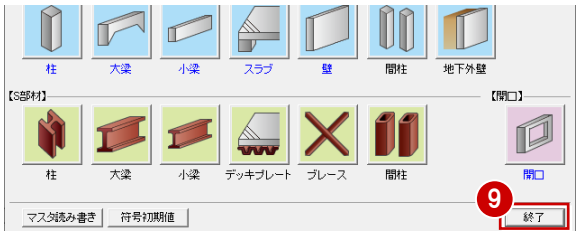


❼ 「名称」にマスタの名前を入力します。
ここでは「RC4 階建て」と入力します。

❽ 「OK」をクリックします。

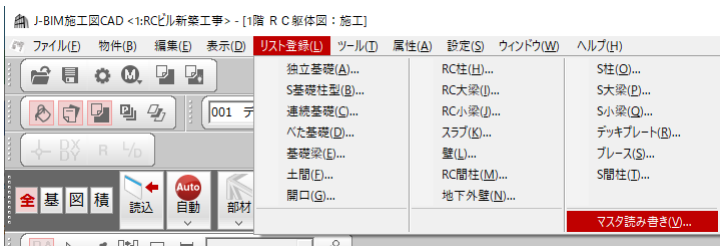


❾ 「終了」をクリックします。



RC 躯体図の画面から操作する

「マスタ読み書き」は、RC 躯体図の「リスト登録」メニューから操作することもできます。



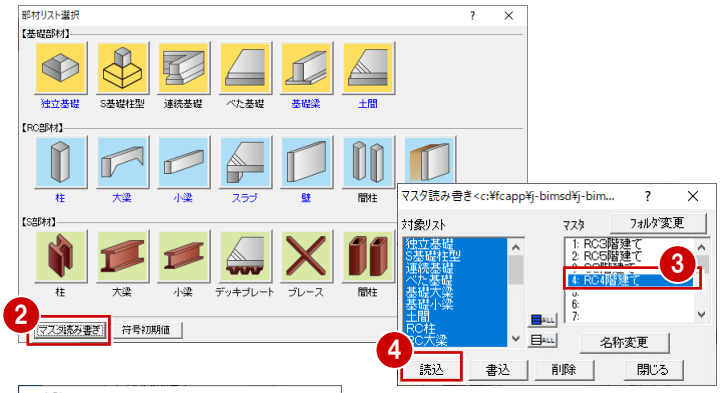
リストを読み込む

❶ 新しい物件を開き、「処理選択」ダイアログの「リスト登録」をダブルクリックします。

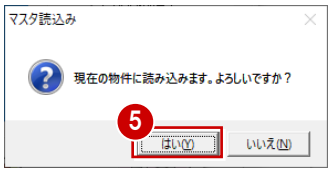
❷ 「マスタ読み書き」をクリックします。

❸ 目的の部材リストが登録されているマスタを選択します。

❹ 「読込」をクリックします。



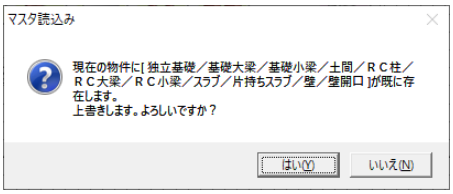
❺ 確認画面で「はい」をクリックします。



❻ 「終了」をクリックします。

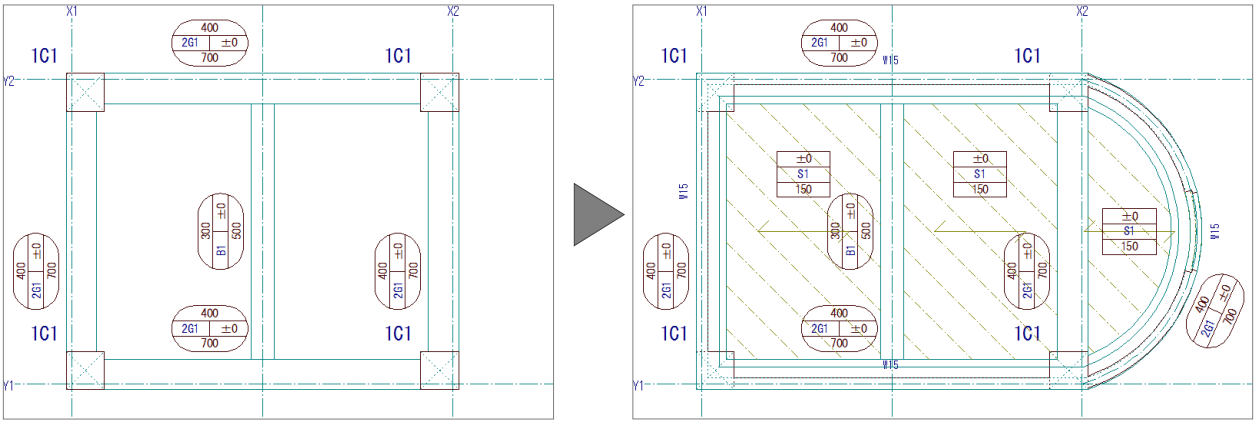
すでに部材リストが登録されている場合は

作業中の物件にすでに部材リストが登録されている場合は、右図のような上書きの確認画面が表示されます。
既存の部材リストにマスタの内容を上書きする場合は「はい」を、リストの読み込みを中止する場合は「いいえ」を選択します。



Q3 R の躯体・壁開口を入力するには

Rの躯体を入力するには、作図芯を使ってR部分の壁芯を入力し、壁芯を利用して梁・壁・RCスラブ・パラペットなどを入力します。また、R部分の壁開口はRFix窓やR引分け戸を利用して入力します。
ここでは例として、通り芯・柱・梁まで入力したデータにR部分の壁芯を追加し、残りの躯体と壁開口を入力する方法を解説します。



【完成図】

作図芯を入力する

作図芯を使ってR部分の壁芯を入力しましょう。

❶ 「通り芯」メニューから「通り芯の入力」を選びます。

❷ 「タイプ」の「作図芯」にチェックを入れます。

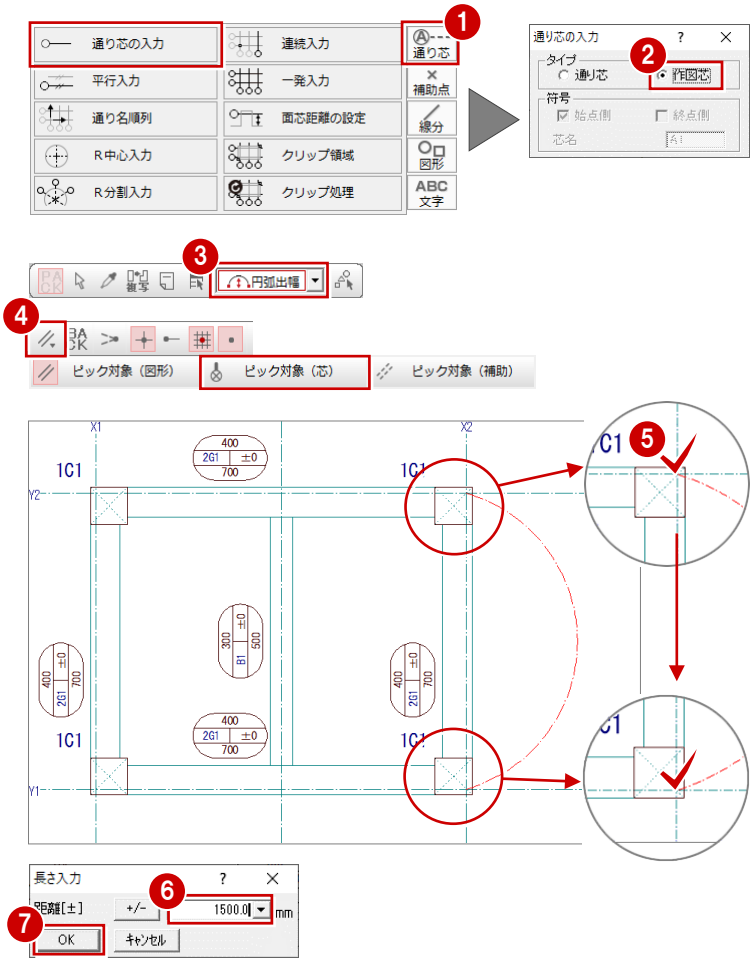
❸ 入力方法を「円弧出幅」に変更します。

❹ 「ピック対象切替」をクリックして、「ピック対象（芯）」を選びます。

❺ 通り芯の交点をクリックして、作図芯の始点、終点を指定します。

❻ 「距離」に「1500」と入力します。

❼ 「OK」をクリックします。



梁を入力する

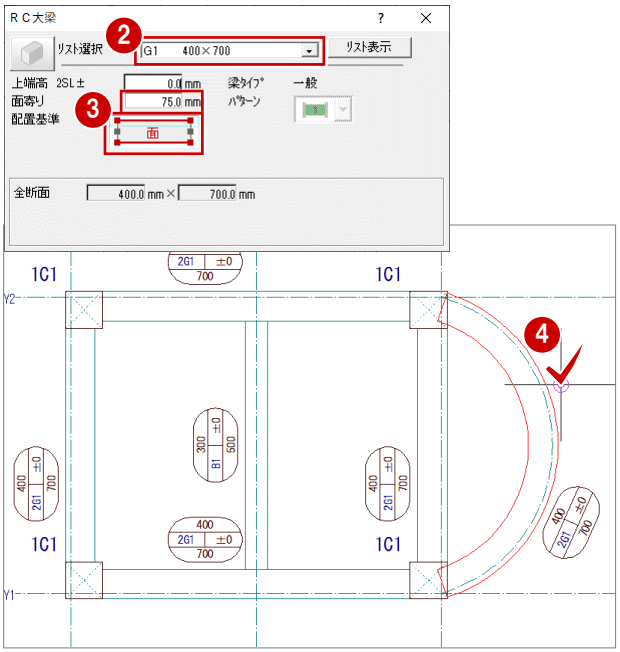
壁芯を利用して梁を入力しましょう。

❶ 「部材」メニューから「梁」の「RC 大梁」を選びます。

❷ 目的の部材を選択します。

❸ 「配置基準」を「面基準」に変更し、「面寄り」に「75」と入力します。

❹ R の作図芯の外側をクリックします。



壁を入力する

壁芯を利用して壁を入力しましょう。

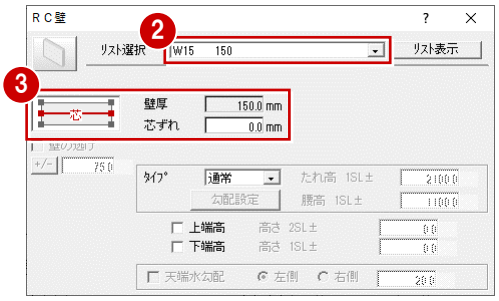
❶ 「部材」メニューから「壁」の「RC 壁」を選びます。

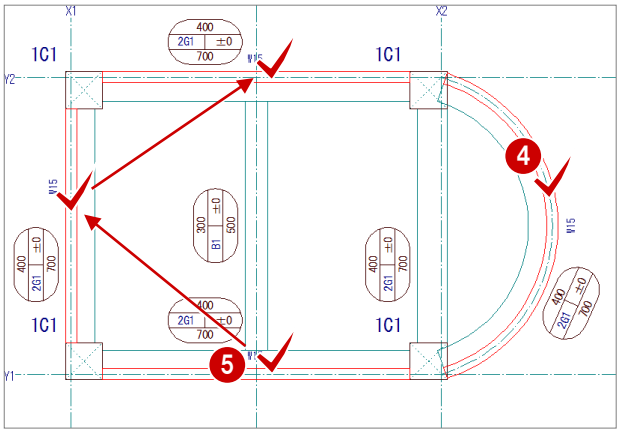
❷ 目的の部材を選択します。

❸ 「配置基準」が「芯基準」、「芯ずれ」が「0」であることを確認します。

❹ R 部分の作図芯をクリックします。

❺ 同様にして残りの壁も入力します。

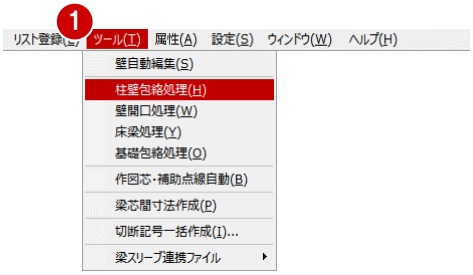




一括処理を実行する

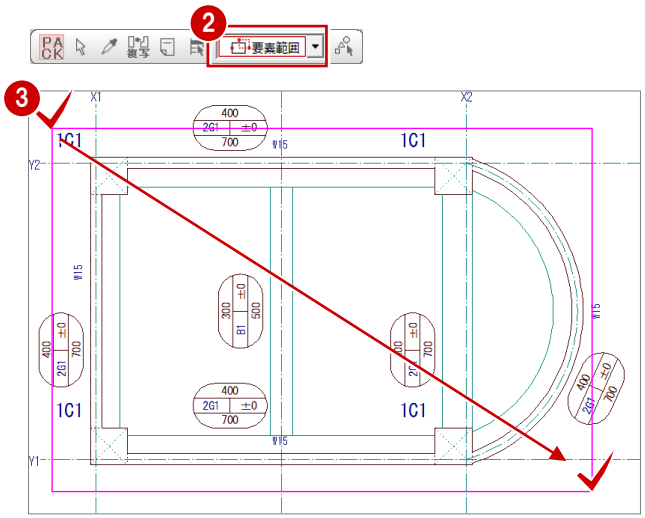
柱と壁が重なっている部分や柱に食い込んでいる梁を包絡しておきましょう。

❶ 「ツール」メニューから「柱壁包絡処理」を選びます。



❷ 選択方法が「要素範囲」であることを確認します。

❸ 躯体データを囲むように、範囲を指定します。



※ この処理は、「自動」メニューの「一括処理」で「柱壁包絡処理」を実行するのと同じです。

壁開口を入力する

RFix窓を利用してR部分に壁開口を入力しましょう。
まず、RFix窓を部材リストに登録し、その後、壁開口を入力します。

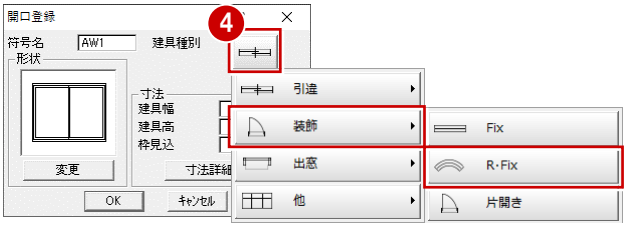
RFix 窓をリストに登録する

❶ 「開口」メニューから「開口（金属窓）」を選びます。

❷ 「リスト表示」をクリックします。

❸ 「アルミ窓」の未登録欄をダブルクリックします。

❹ 「建具種別」を「装飾」メニューから「RFix」を選びます。



❺ 「寸法詳細」をクリックします。

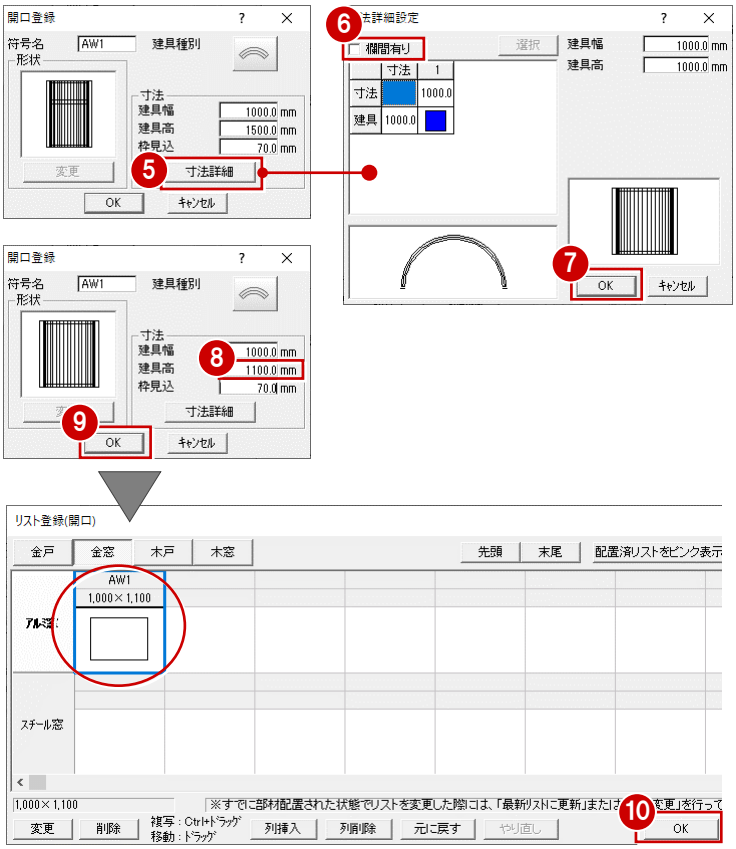
❻ 「欄間有り」のチェックを OFF にします。

❼ 「OK」をクリックします。

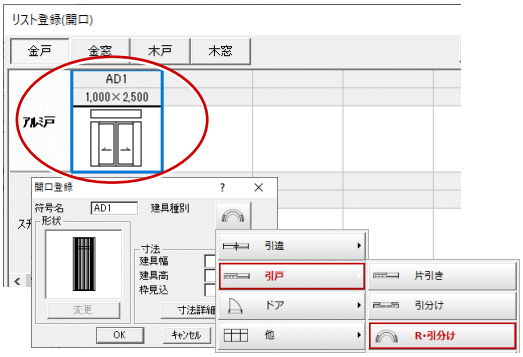
❽ 「建具高」を「1100」に変更します。

❾ 「OK」をクリックします。
RFix がリストに登録されます。

❿ 「OK」をクリックします。
「開口（金属窓）」ダイアログに戻ります。



※ R 部分の壁開口は、R 引分け戸を利用して入力することもできます。



RFix 窓を入力する

❶ 登録した「AW1 1,000×1,100」が選択されていることを確認します。

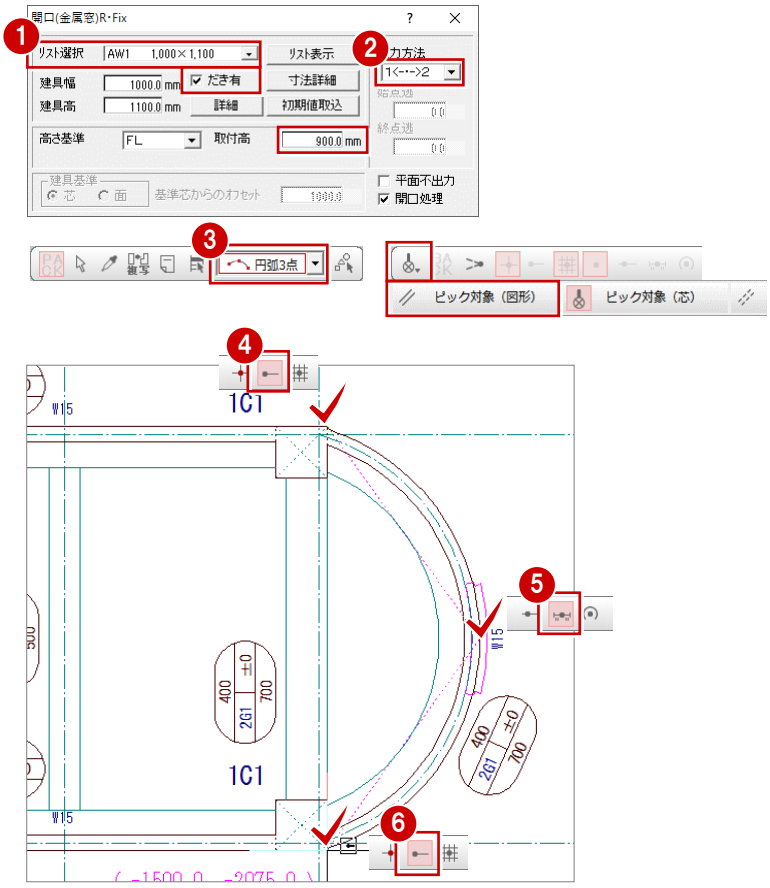
❷ 以下のように設定します。
入力方法：「1<-·->2」
だき有：ON
取付高：「900」

❸ 入力方法が「円弧 3 点」であることを確認します。
「ピック対象切替」を「ピック対象（図形）」に変更します。

❹ 「ピック（端点）」を ON にして、円弧の開始点をクリックします。

❺ 「ピック（中点）」を ON にして、円弧の通過点をクリックします。

❻ 「ピック（端点）」を ON にして、円弧の終了点をクリックします。



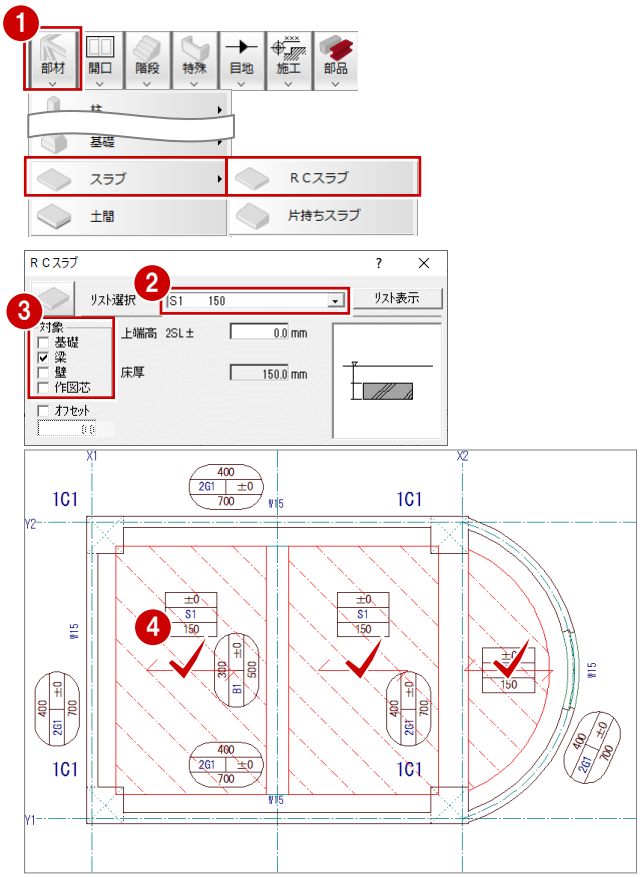
RC スラブを入力する

❶ 「部材」メニューから「スラブ」の「RC スラブ」を選びます。

❷ 目的の部材を選択します。

❸ 「対象」で「梁」のみにチェックが付いていることを確認します。

❹ スラブの入力位置をクリックします。



パラペットを入力する

建物全体にパラペットを入力してみましょう。

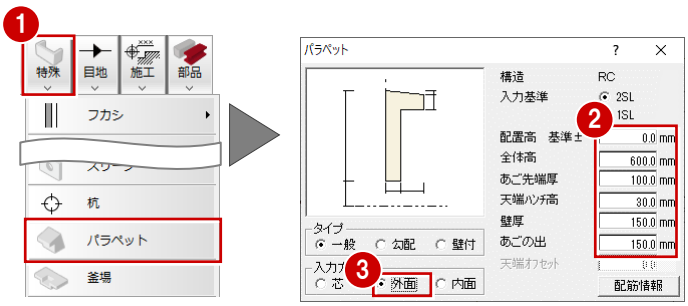
❶ 「特殊」メニューから「パラペット」を選びます。

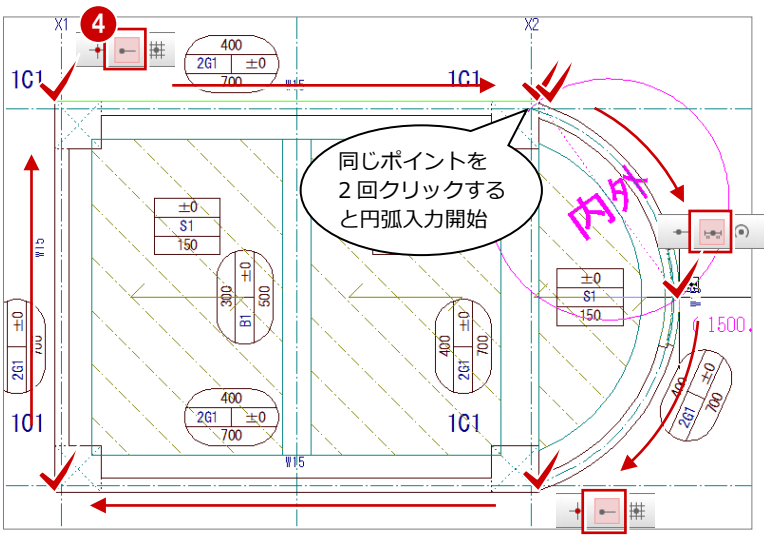
❷ 各部の寸法を入力します。
ここでは右図のように変更します。

❸ 「入力方法」の「外面」のチェックを ON にします。

❹ 「ピック（端点）」「ピック（中点）」を使用して、右図のように躯体（外面）のラインをクリックしていきます。
最後は 1 点目と同じポイントをクリックします。

※ 開始点をクリックしたあと、Shift キーを押しながら通過点を指定する方法でも円弧入力が行えます。

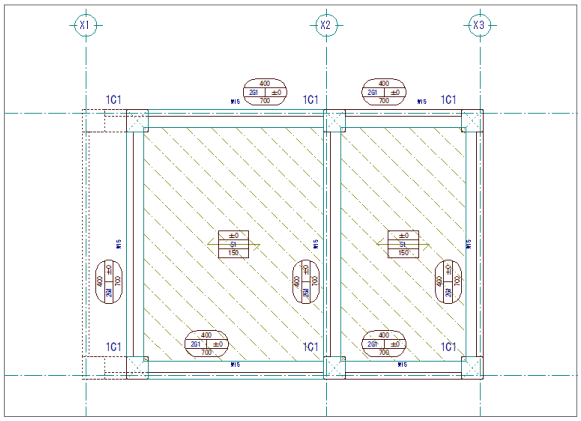


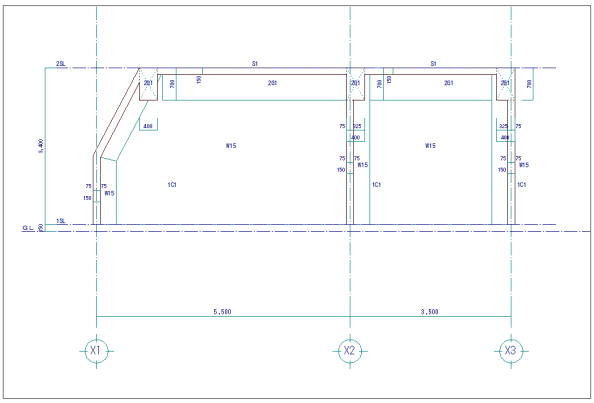


Q4 セットバックした躯体を入力するには

セットバックした躯体を入力するには、柱・壁・梁などを入力したあと、対象箇所にセットバック属性を設定します。

※ セットバックの対象となるのは、柱（丸柱・異形柱は除く）、壁、梁、スラブ類、パラペット、柱・壁・梁に入力されているふかし・スリーブ・記号（符号）などです。



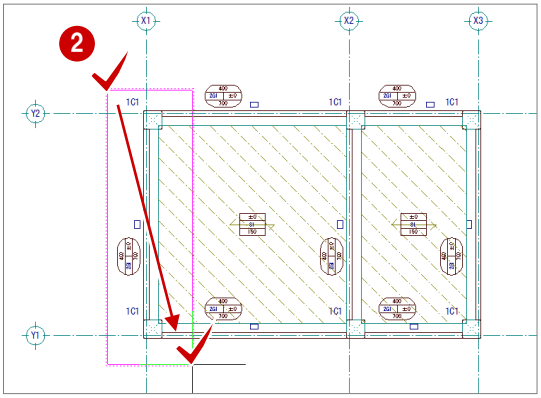


【完成図】

セットバックを設定する

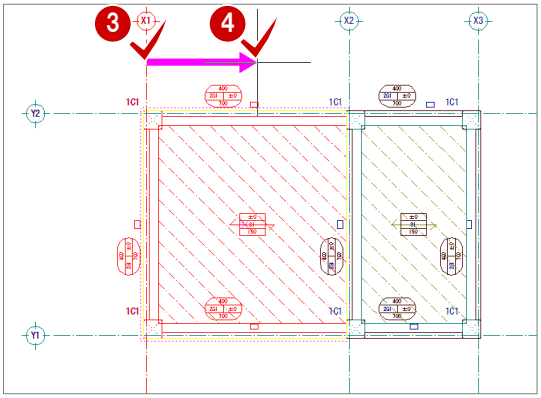
❶ 「編集」メニューから「セットバック処理」の「セットバック属性設定」を選びます。

❷ セットバックを設定する箇所が収まるように範囲を指定します。



❸ 基準となる通り芯をクリックします。

❹ 躯体を動かす方向をクリックします。

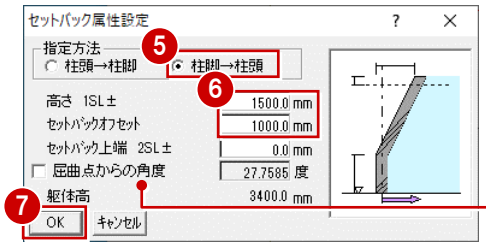


❺ 「柱脚→柱頭」にチェックが入っていることを確認します。

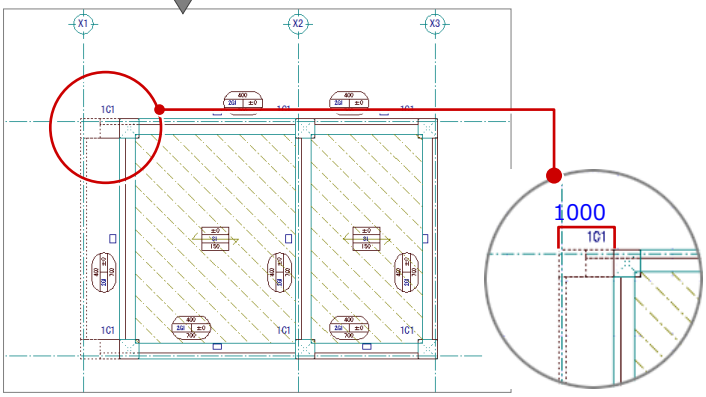
※ ここでは、❹で指定した方向に柱頭を動かします。柱脚を動かすときは、「柱頭→柱脚」を選びます。

❻ 屈曲点までの「高さ」を「1500」に変更し、「セットバックオフセット」が「1000」であることを確認します。

❼ 「OK」をクリックします。
躯体にセットバックが設定されます。



屈曲点までの高さと屈曲点からの傾きを設定して躯体を動かすときは、「屈曲点からの角度」にチェックを付けます。



断面を確認する

断面を開いてセットバックした箇所を確認してみましょう。

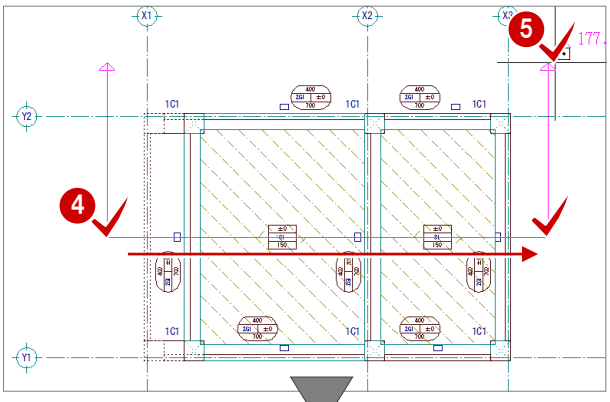
❶ 「断面」をクリックします。

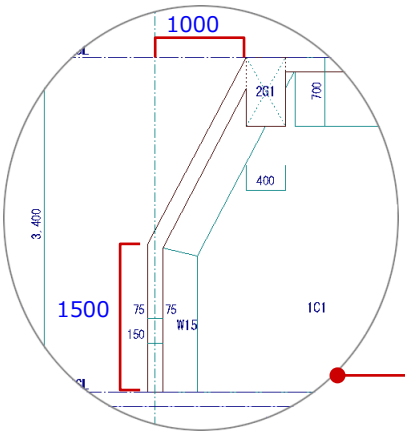
❷ 未登録欄をダブルクリックします。

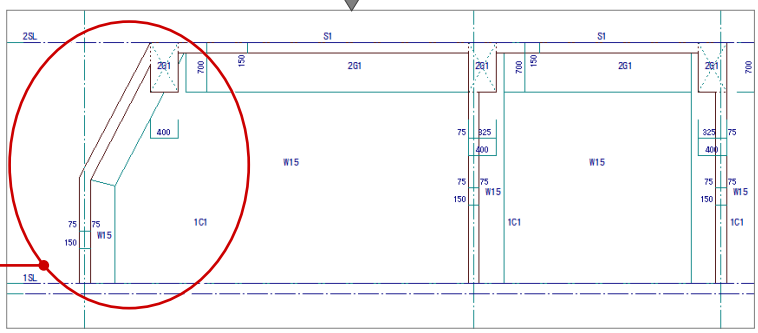
❸ 「RC 躯体断面図作成条件」ダイアログで「基準なし」を ON にします。

❹ 切断線の始点と終点をクリックします。

❺ 見えがかりの方向をクリックします。



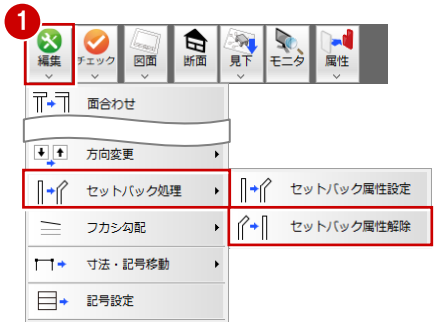




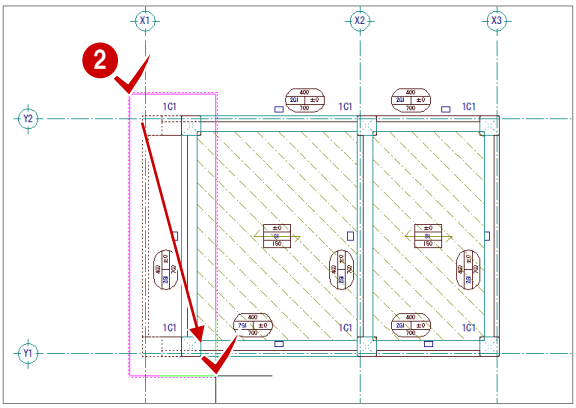
セットバックを解除する

セットバックした躯体を元に戻すには、「セットバック属性解除」を使用します。

❶ 「編集」メニューから「セットバック処理」の「セットバック属性解除」を選びます。



❷ 設定を解除する範囲を指定します。
設定されているセットバックの属性が表示されます。

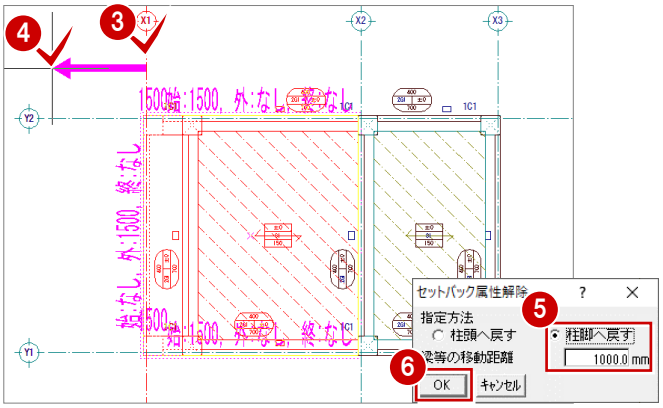


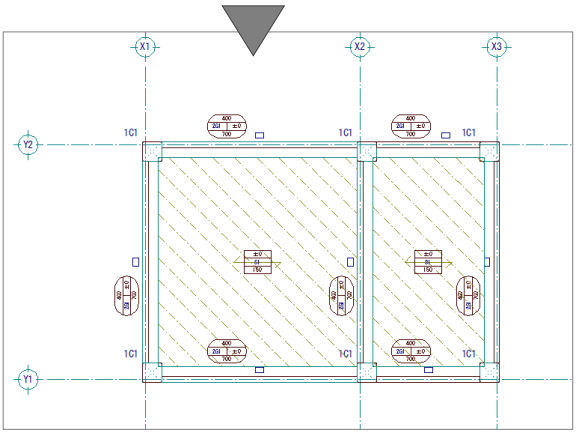
❸ 基準となる通り芯をクリックします。

❹ 躯体を戻す方向をクリックします。

❺ 「柱脚へ戻す」のチェックが ON、「梁等の移動距離」が「1000」であることを確認します。

❻ 「OK」をクリックします。





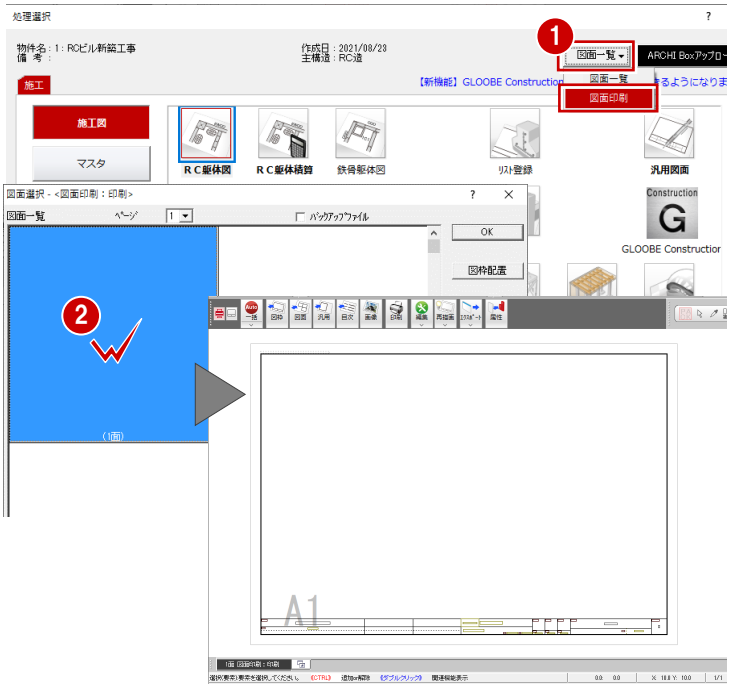
Q5 オリジナルの図面枠を作成するには

他社CADで使用していた図面枠を利用して、J-BIM施工図CADの図面枠として登録しましょう。
Jw_cadのファイル形式（jww，jwc）やAutoCADのファイル形式（dwg，dxf）を読み込むことが可能です。
ここでは、例としてJw_cadデータを読み込んで図面枠を作成する手順を解説します。
DXF/DWGデータも同様な操作で読み込めます（ただし、Jw_cadと読込条件は異なります）。

図面印刷（1 面）を開く

❶ 「処理選択」ダイアログで「図面一覧」をクリックしてメニューから「図面印刷」を選びます。

❷ 「1 面」をダブルクリックします。
1 面目が開いて、初期設定でセットされている標準の図面枠（A1 サイズ）が読み込まれます。



用紙を設定する

❶ 「モード切替（図枠）」をクリックします。
図面枠の編集モードに切り替わります。

❷ 「配置」をクリックします。

❸ 「グループ」でサイズを選びます。
ここでは、「1：A1 サイズ」であることを確認します。

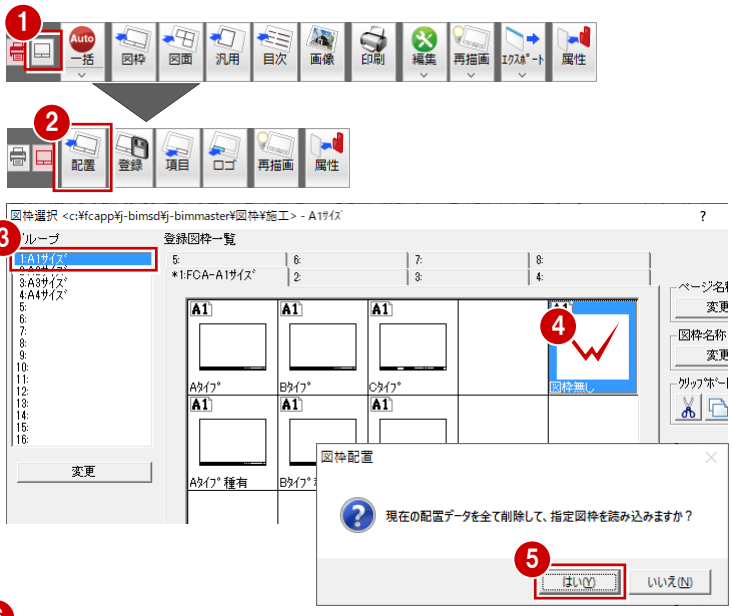
❹ 一覧から配置する図枠を選びます。
ここでは、「図枠無し」をダブルクリックして選択します。

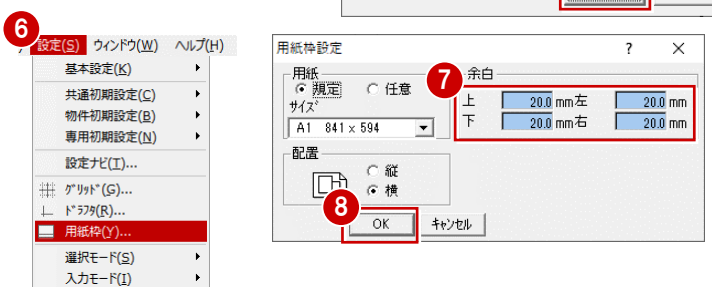
❺ 確認画面で「はい」をクリックします。

❻ 「設定」メニューから「用紙枠」を選びます。

❼ 「余白」の設定を、他社 CAD で使用していた設定に合わせます。
ここでは、「上」「下」「左」「右」を「20」に設定します。

❽ 「OK」をクリックします。





他社 CAD データを読み込む

ここでは、Jw_cadのデータ（jww）を読み込む操作を解説します。

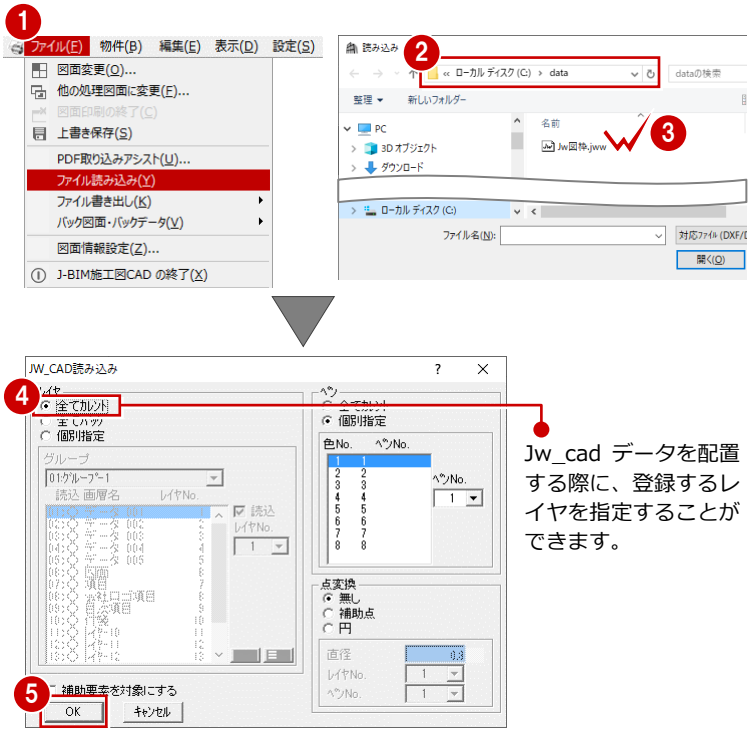
❶「ファイル」メニューから「ファイル読み込み」を選びます。

❷ 読み込むフォルダを設定します。

❸ JWW ファイルをダブルクリックして選択します。

❹ 変換条件を設定します。
ここでは、「レイヤ」の「全てカレント」にチェックを入れます。

❺「OK」をクリックします。

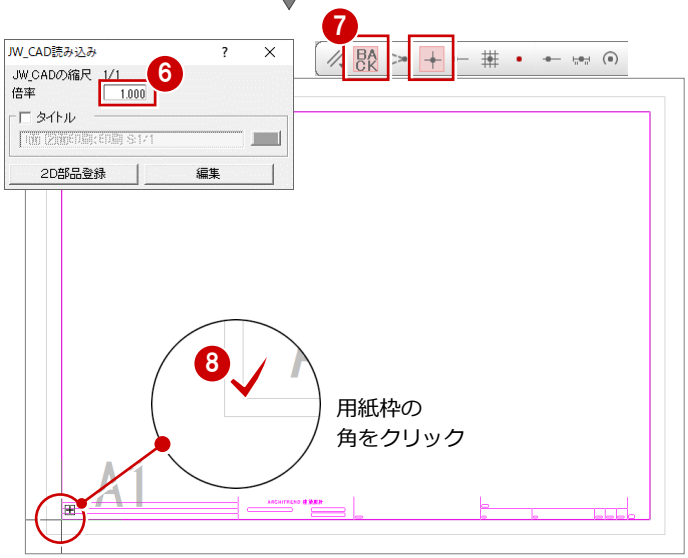


Jw_cad データを配置する際に、登録するレイヤを指定することができます。

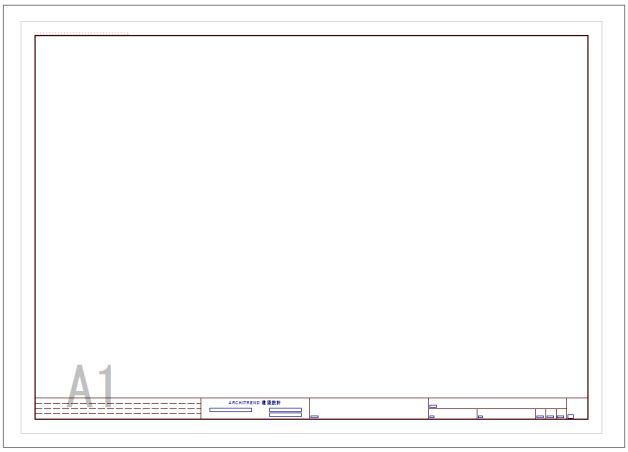
❻ Jw_cad データの縮尺を設定します。
ここでは、配置するデータを等倍で配置するため、「1.000」であることを確認します。

❼「ピック対象（バックレイヤ）」「ピック（交点）」を ON にします。

❽ データの配置位置を指定します。ここでは、バックに表示されている用紙枠の角を指定します



❾ 再度「読み込み」ダイアログは「キャンセル」で閉じます。



図枠項目を配置する

図枠項目とは、物件情報などのデータから連動する項目です。
図枠内に図面名称、縮尺、更新日、物件名、ページ番号などの項目を配置しましょう。

❶ 「項目」をクリックします。

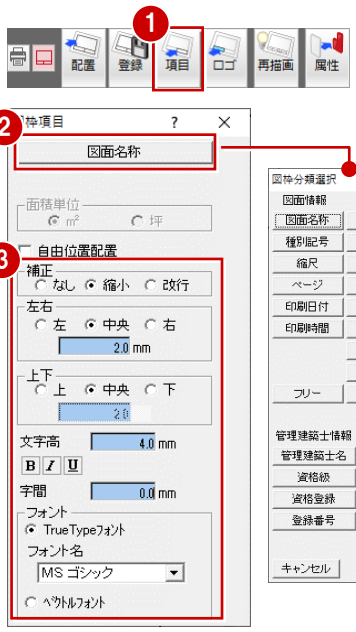
❷ 図枠項目を選びます。ここでは「図面名称」を選びます。

❸ 図枠項目の配置位置や文字高、フォントなどを設定します。
ここでは次のように設定します 。
「補正」 ：縮小
「文字高」：4 ㎜
「字間」 ：0 ㎜

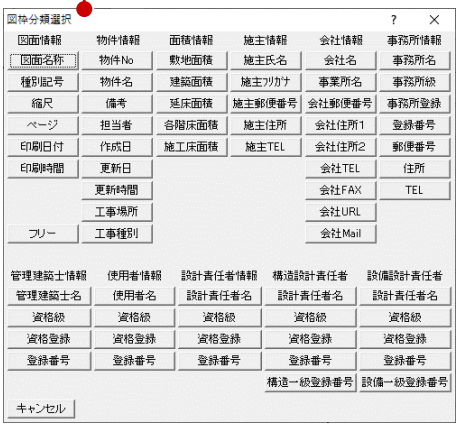
❹「ピック（フリー）」のみ ON にします。

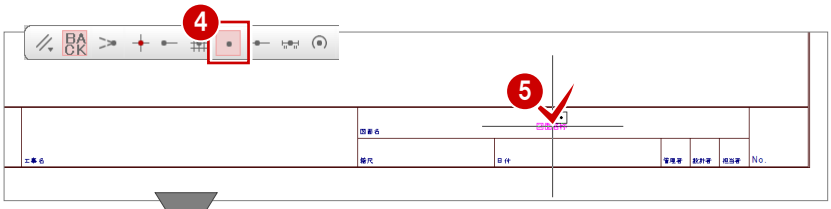
❺ 配置する枠内をクリックします。

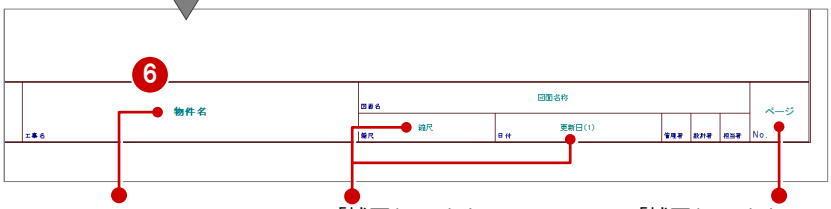
❻ 同様にして、他の項目も配置します。



図枠項目のボタンをクリックすると別の項目に変更できます。







「補正」 ：縮小
「文字高」：5 ㎜
「字間」 ：1 ㎜

「補正」 ：なし
「文字高」：4 ㎜
「字間」 ：0 ㎜

「補正」 ：なし
「文字高」：5 ㎜
「字間」 ：0 ㎜

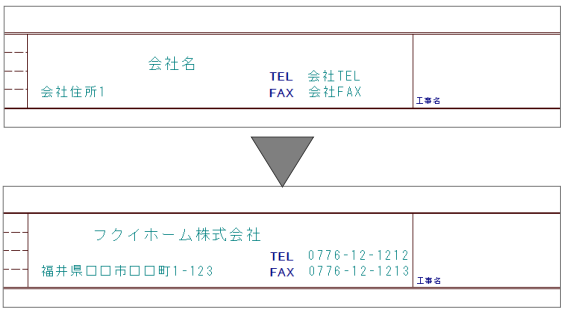
※ 図面を配置すると、図面から内容が連動して、下のように自動表示されます。

図枠項目「補正」の設定について

「なし」：枠の横幅に収まらないときでも、補正をしないで表示します。
「縮小」：改行せずに枠の横幅に収まるように文字サイズを小さくします。
「改行」：枠の横幅に収まらないときに改行します。複数の図面が配置してある場合の「図面名称」では、カンマの位置で改行します。

会社情報について

「会社名」「会社 TEL」などの図枠項目を配置しておくと、図面枠の配置時に「基本設定：会社情報」の内容から連動します。
※ 他 CAD で作成したデータに、すでに会社名、住所などが入力されている場合は、その文字列をそのまま使用しても構いません。



補足 ロゴを配置するには

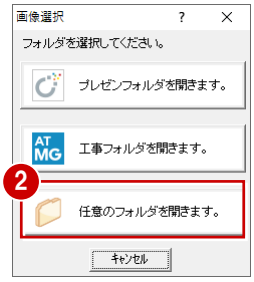
自社のロゴのサイズを指定して、配置する操作を解説します。

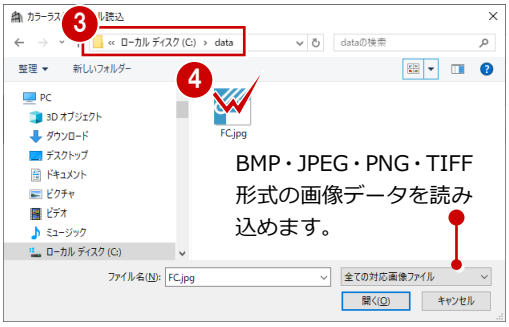
❶ 「画像」をクリックします。

❷ 「画像選択」ダイアログで、「任意のフォルダを開きます。」をクリックします。

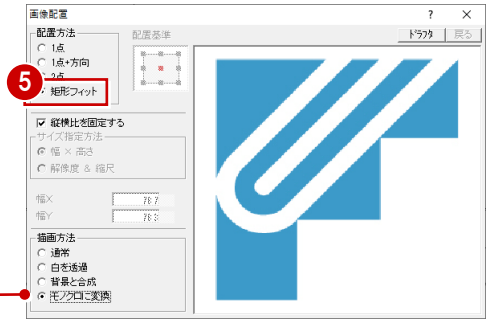
❸ ダイアログで読み込む画像を格納しているフォルダを選びます。

❹ 読み込む画像をダブルクリックします。





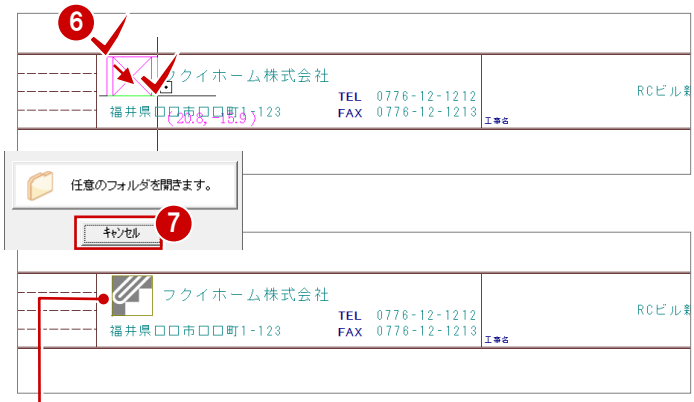
❺ 「画像配置」ダイアログで「矩形フィット」を ON にします。



「モノクロに変換」にチェックを付けると、カラーのラスタデータをモノクロに変換して配置することもできます。

❻ 右図のように、始点、対角点をクリックして、ロゴを配置する範囲を指定します。

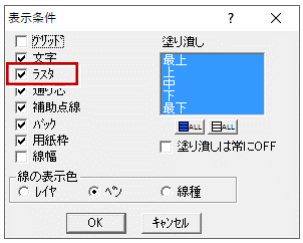
❼ 「キャンセル」をクリックして、ダイアログを閉じます。



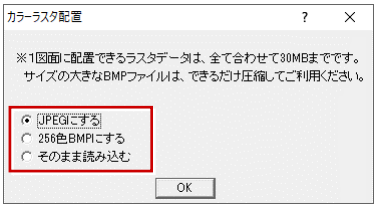
ラスタデータには枠が表示されますが、枠は印刷されません。

ラスタデータの削除や移動といった編集機能が「画像」メニューの中に用意されています。

配置した画像が表示されないときは、「表示」メニューの「表示条件」を選んで、「ラスタ」にチェックが付いているか確認してください。



256 色を超える BMP 形式の画像データを配置しようとすると、データの読み込み方を選択するダイアログが表示されます。JPEG 形式に変換してデータサイズを圧縮するか、BMP 形式のまま 256 色に減色するかを選択できます。



1 図面に配置できる画像データは、全てあわせて 30MB までです。これを超える場合は、警告メッセージが表示されて配置できません。

編集した図面枠を登録する

作成した図枠を図枠マスタに登録します。

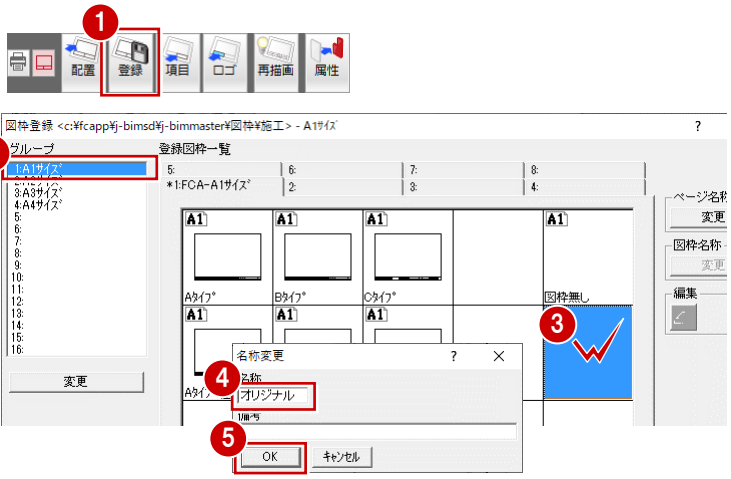
❶ 「登録」をクリックします。

❷ 「グループ」でサイズを指定します。
ここでは、「1：A1 サイズ」をクリックします。

❸ 空いている欄をダブルクリックします。

❹ 「名称」に名前を入力します。

❺ 「OK」をクリックします。
図面枠が登録されます。



図面枠の自動配置条件を変更する

図面印刷で図面を開いたときに、この自社用の図面枠を配置するようにしておきましょう。

❶ 「設定」をクリックします。

❷ 「専用初期設定」をクリックします。

❸ ツリーから「図枠配置条件」をクリックします。

❹ 「設定」をクリックします。

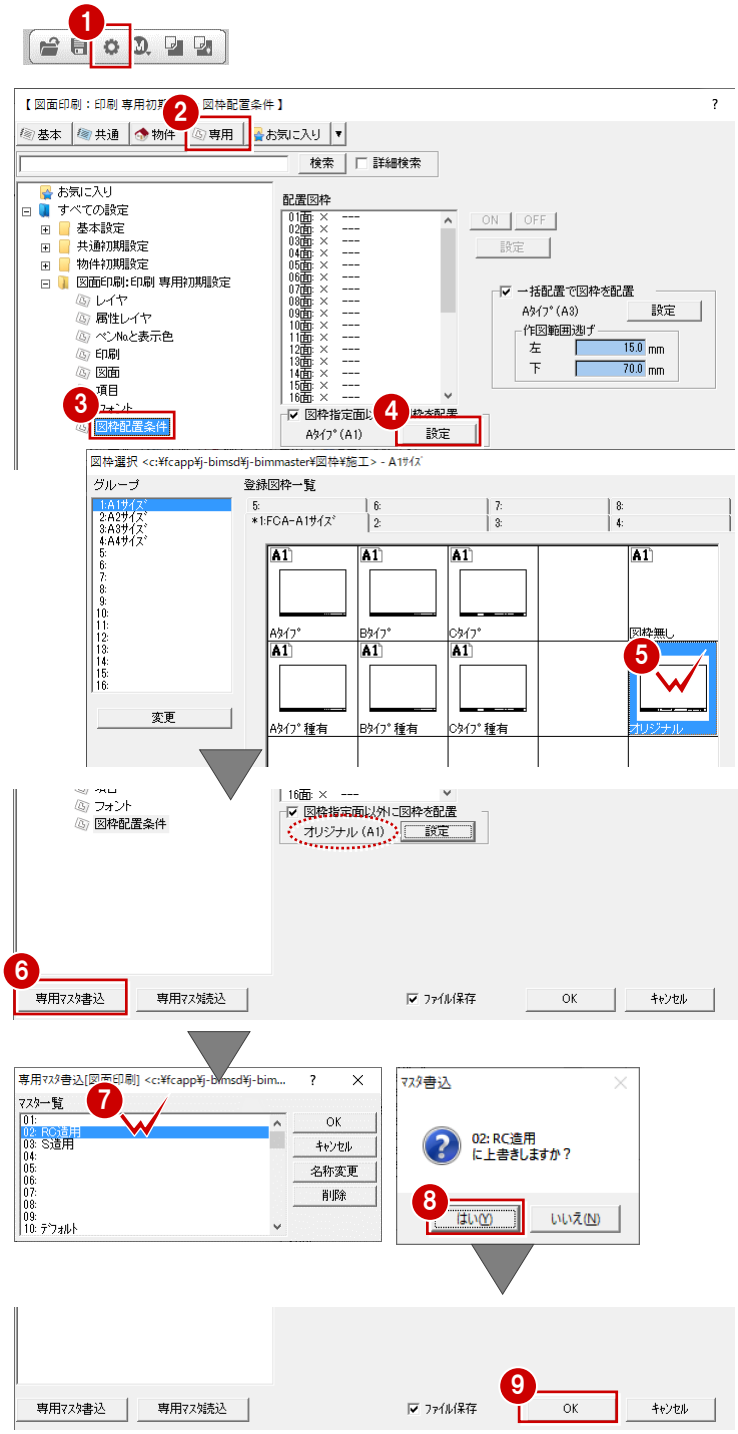
❺ 先ほど登録した図面枠をダブルクリックして選択します。

❻ 「専用マスタ書込」をクリックします。

❼ 専用マスタに書き込みます。
ここでは、「02：RC 造用」をダブルクリックします。

❽ 確認画面で「はい」をクリックします。

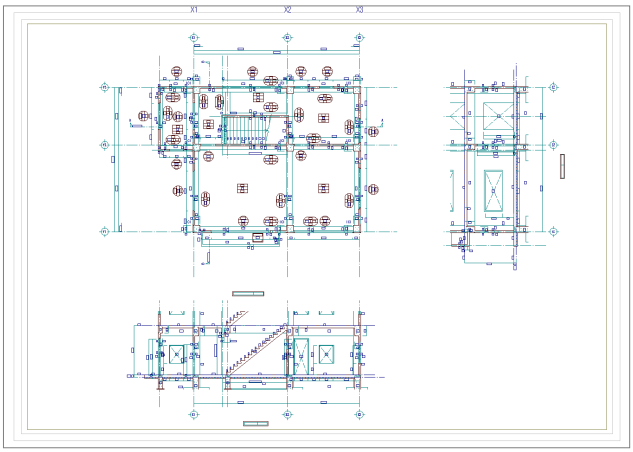
❾ 「OK」をクリックします。



Q6 見上図と断面図を合成するには

見上図と断面図を1枚の図面に配置するには、断面図を作成する際、見上図が配置されている図面を出力先に指定します。

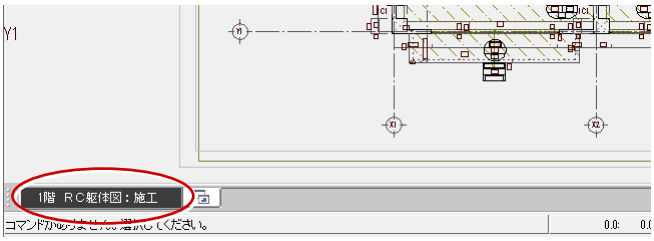
ここでは例として、1階 見上図にX軸・Y軸の断面図を配置する方法を解説します。



【完成図】

1 階 RC 躯体図を開く

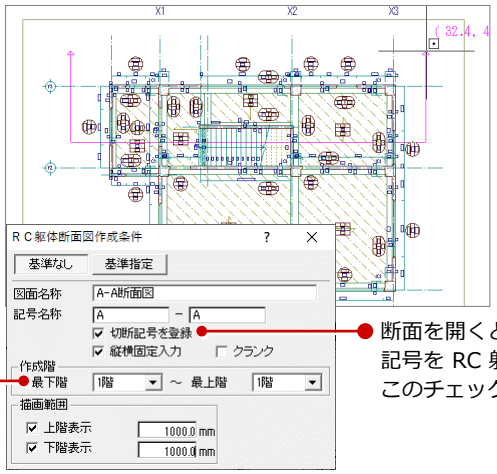
「1階 RC躯体図：施工」のウィンドウを開きます。



断面を開く

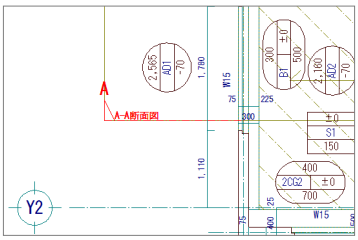
「断面」を使用して、X軸に対する断面を開きましょう。

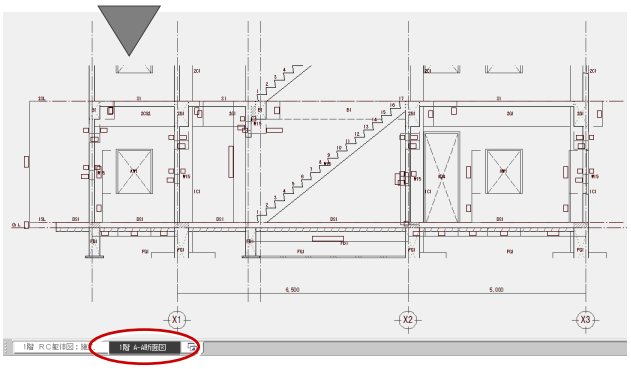
⇒ 操作方法は、「RC 躯体図入門編」の「6-2 断面図の作成」を参照



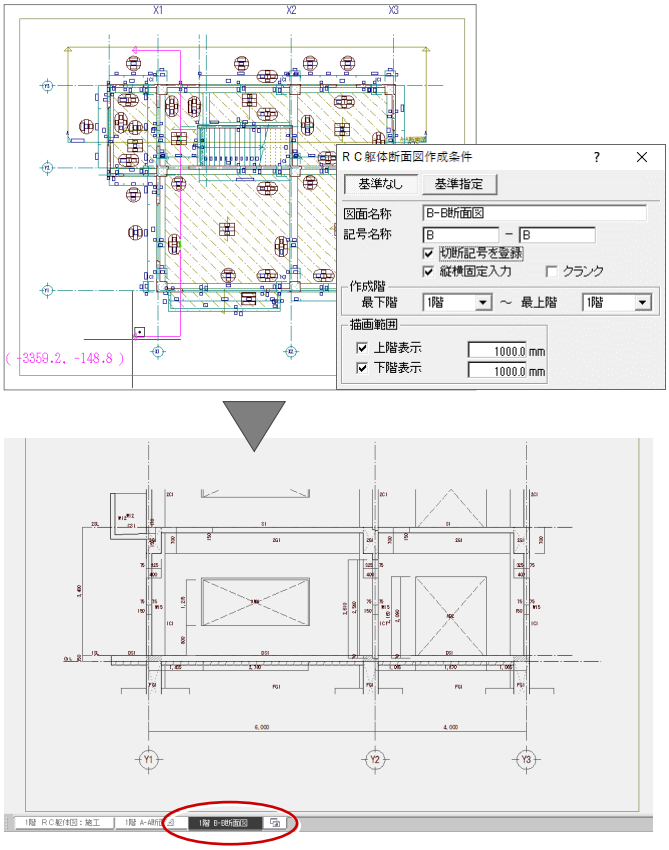
断面を開くときに、切断位置を示す記号を RC 躯体図に入力するには、このチェックを付けておきます。

1 階の断面図を作成するときは、「最下階」と「最上階」をそれぞれ「1 階」にしておきます。





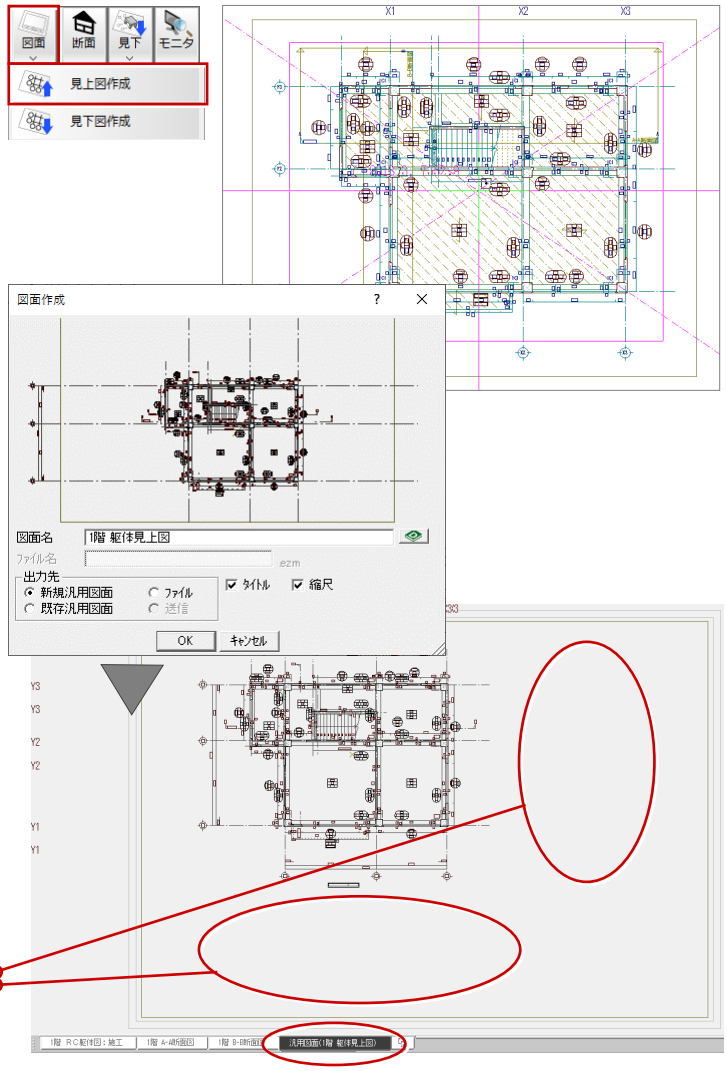
「1階 RC躯体図：施工」ウィンドウに戻り、同様な操作でY軸に対する断面を開きましょう。



見上図を作成する

「1階 RC躯体図：施工」ウィンドウに戻って、見上図を作成しましょう。

⇒ 操作方法は、「RC 躯体図入門編」の「6-1 見上図の作成」を参照

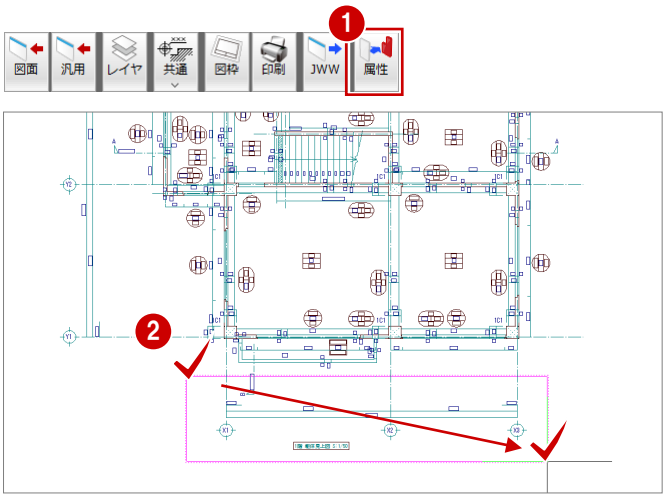


断面図を配置する場所を考慮して
見上図を配置しておきましょう。

作成した見上図の通り芯の符号が断面を配置する側に付いている場合は、「属性変更」を使って符号の位置を変更しましょう。

❶ 「属性」をクリックします。

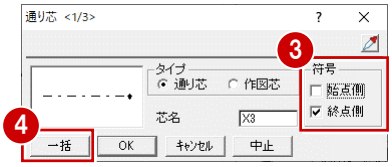
❷ 範囲を指定して、対象の通り芯をすべて選択します。（選択方法：要素範囲）

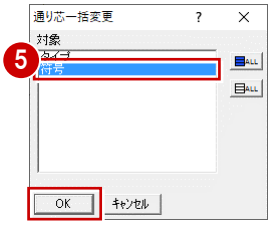


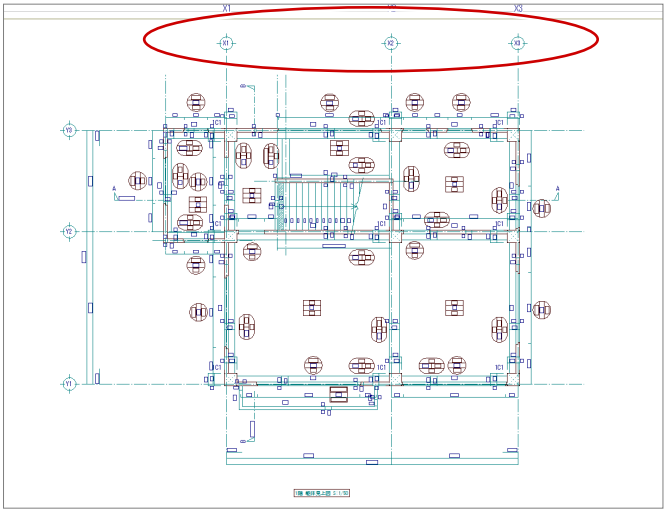
❸ 「始点側」のチェックを OFF にし、「終点側」を ON にします。

❹ 「一括」をクリックします。

❺ 「符号」が ON になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

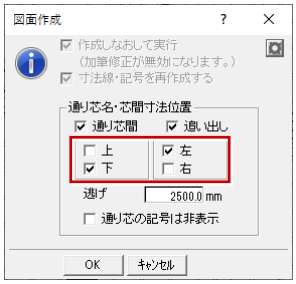


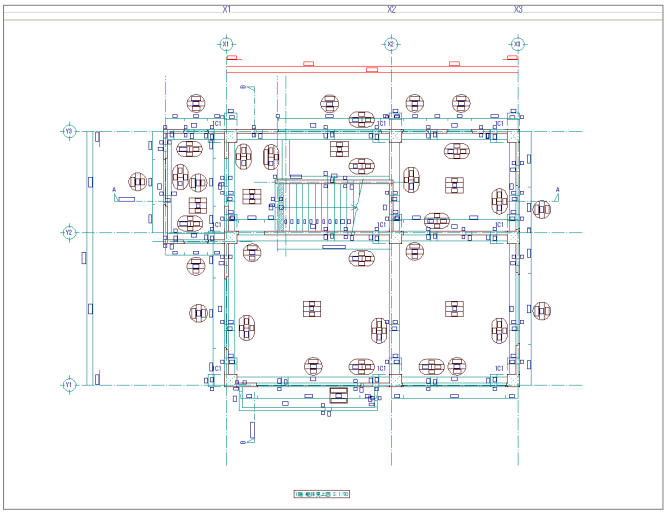




また、通り芯間の寸法などもポップアップメニューの「移動」を使って、上部へ移動しておきましょう。

※ 見上図の作成時に、通り芯間寸法の位置を指定することも可能です。





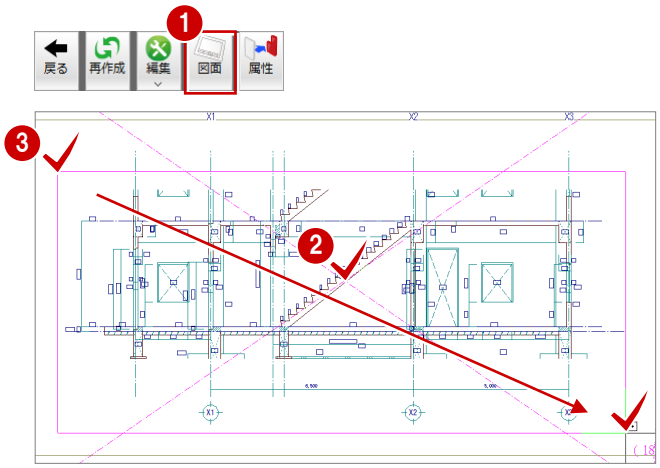
断面図を作成する

作成した見上図に断面図を配置しましょう。
まず、X軸の断面（ここでは「1階　A－A断面図」）のウィンドウに切り替えて、断面図を作成しましょう。

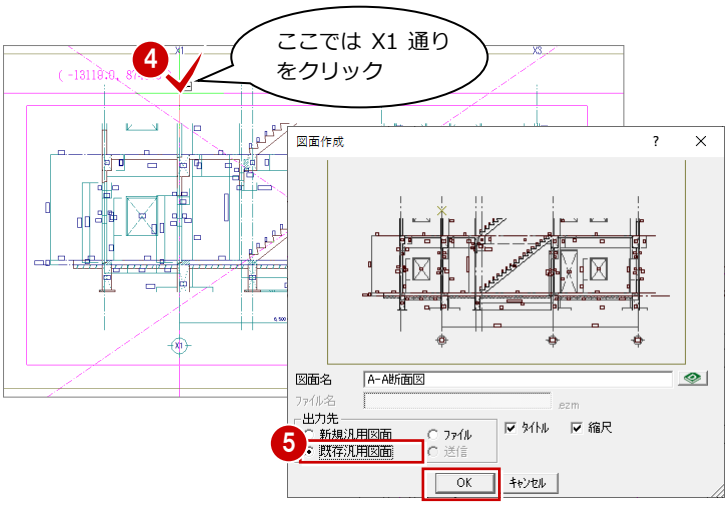
❶ 「図面」をクリックします。

❷ 用紙範囲の中心をクリックします。

❸ 作図領域を指定します。

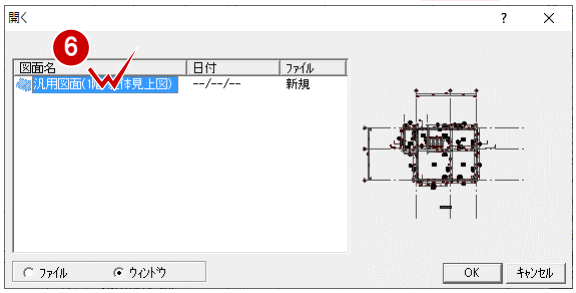


❹ 基準となる通りを指定します。



❺ 「出力先」の「既存汎用図面」のチェックを ON にし、「OK」をクリックします。

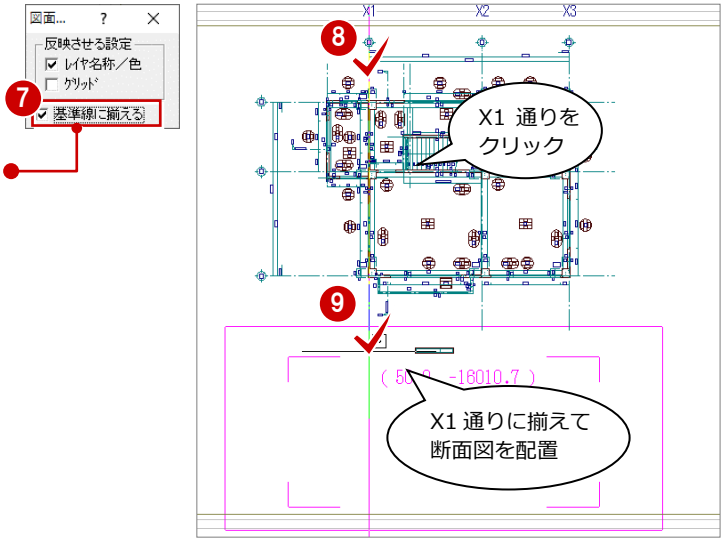
❻ 作成した見上図の図面（ここでは「1 階 見上図」）をダブルクリックします。
見上図のウィンドウに切り替わります。



❼ 「基準線に揃える」を ON にします。

❽ X 1 通りをクリックします。

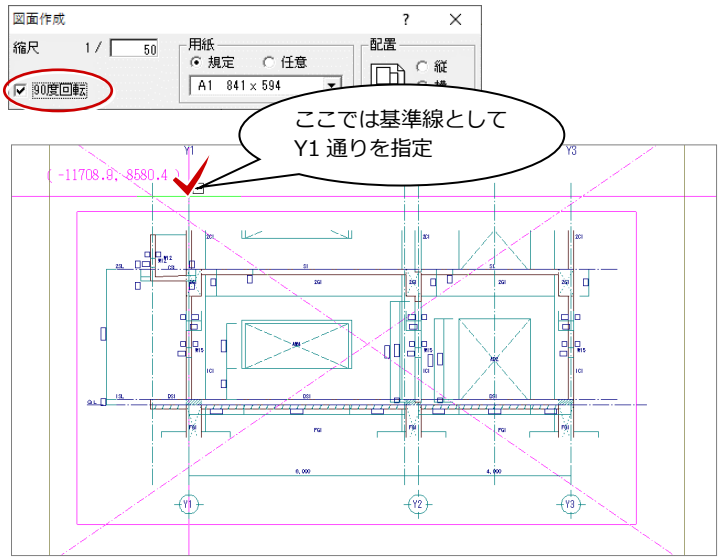
❾ 断面図の配置位置をクリックします。

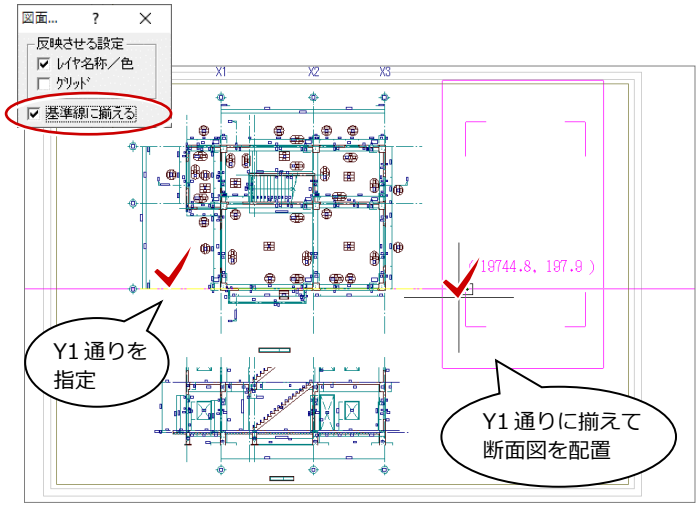


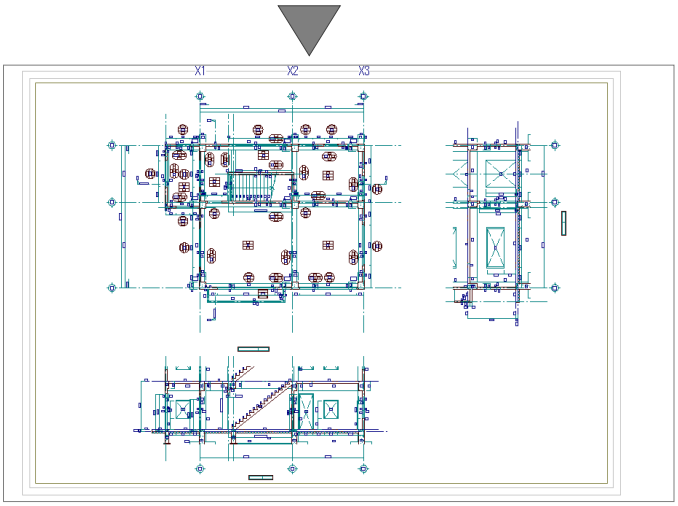
現在開いている図面に断面図を出力するときは、「ウィンドウ」にして一覧で図面を選びます。
以前保存した図面に出力するときは、「ファイル」に変更して目的の図面を開きます。

Y軸の断面（ここでは「1階　B－B断面図」）のウィンドウに切り替えて、同様な操作で断面図を配置しましょう。

※　Y軸の断面図は「図面作成」ダイアログの「90 度回転」を ON にして作成します。

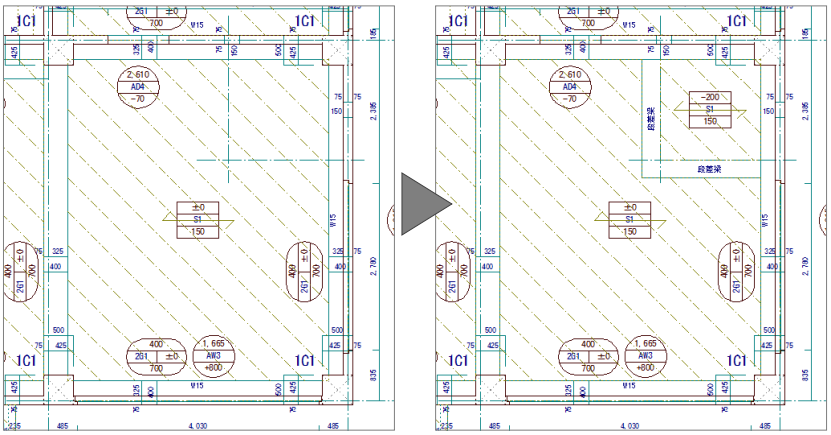






Q7 段差スラブを入力するには

段差スラブを入力するには、あらかじめ標準配筋マスタで補強筋などの配筋仕様を設定しておきます。
ここでは、スラブの一角に段差を付けて、積算結果を確認する操作を紹介します。



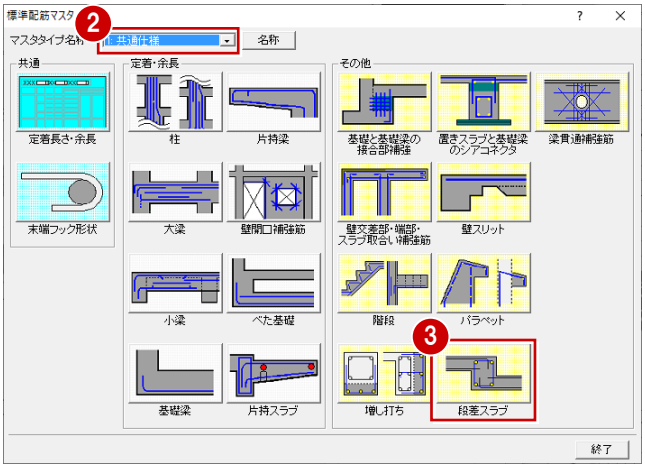
【完成図】

標準配筋マスタを設定する

❶ 「ウィンドウ」メニューから「標準配筋マスタ」を選びます。

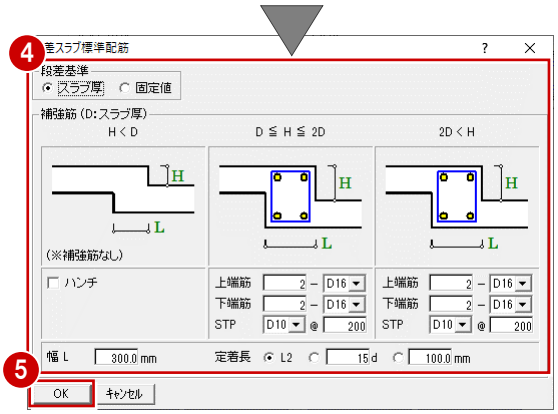
❷ 「マスタタイプ名称」で使用するマスタを確認します。
ここでは、「1：共通仕様」であることを確認します。

❸ 「段差スラブ」をクリックします。

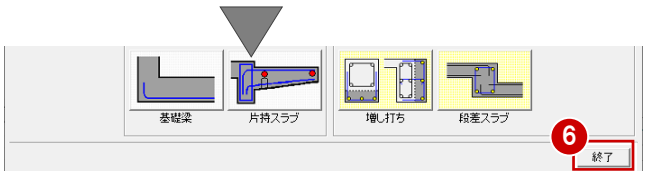


❹ 「段差スラブ標準配筋」ダイアログで配筋情報を確認（または変更）します。

❺ 「OK」をクリックします。



❻ 「終了」をクリックして、「標準配筋マスタ」ダイアログを閉じます。



段差スラブを入力する

❶ 「編集」メニューから「段差スラブ」を選びます。

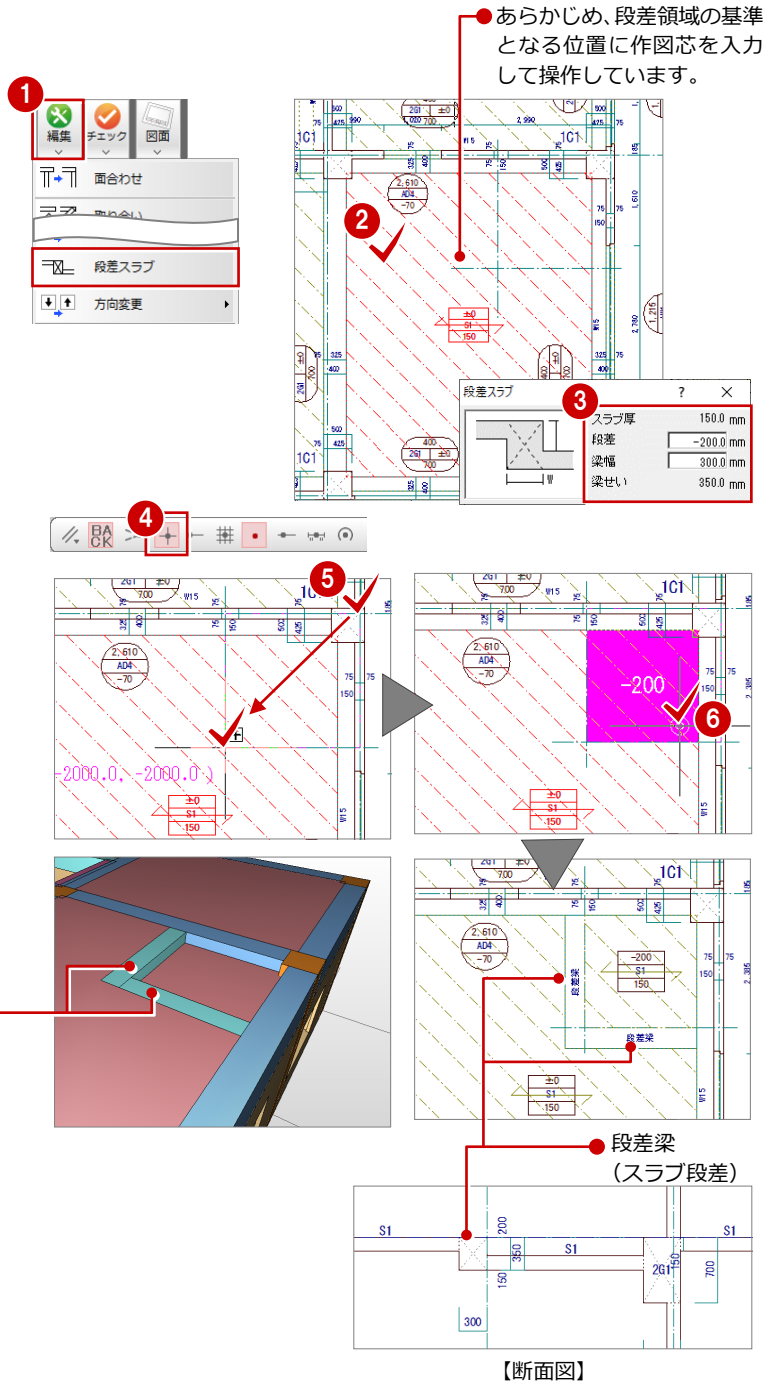
❷ 段差を付けるスラブをクリックします。

❸ 段差する高さや梁の幅を設定します。

❹ 「ピック（交点）」を ON にします。

❺ 通り芯と作図芯の交点をクリックして、段差領域の始点、終点を指定します。

❻ 段差を付ける領域にカーソルを移動して、赤く表示されたらクリックします。
スラブに段差梁が入力されて、指定した範囲のスラブが下がります。

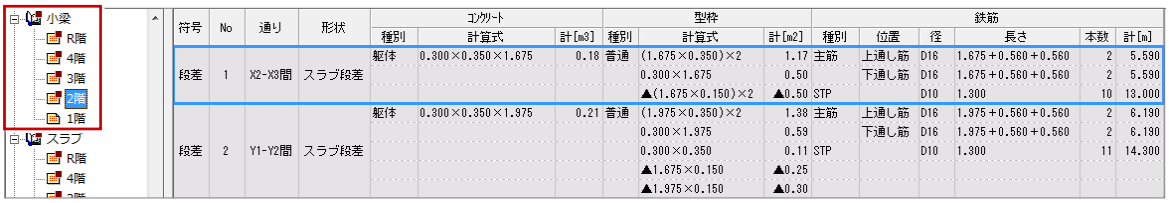


【断面図】

躯体を積算する

段差スラブを入力できたら、「RC躯体積算」を起動して、自動積算を実行しましょう。
段差スラブに関連する内容は、ツリーの「小梁」や「スラブ」で確認できます。

● RC 躯体積算 － 小梁



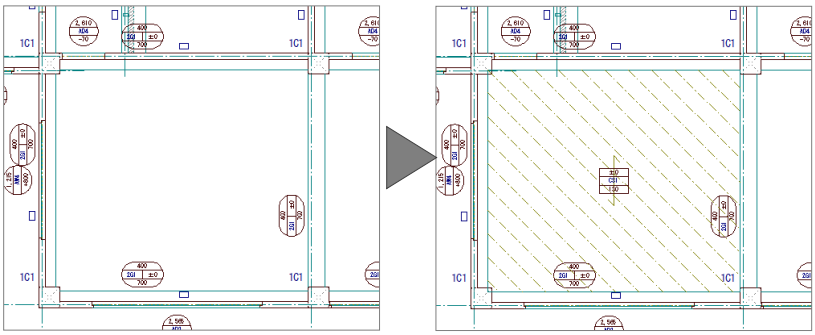
符号	No	通り	形状	コンクリート 種別	コンクリート 計算式	コンクリート 計[m3]	型枠 種別	型枠 計算式	型枠 計[m2]	鉄筋 種別	鉄筋 位置	鉄筋 径	鉄筋 長さ	鉄筋 本数	鉄筋 計[m]
段差	1	X2-X3間	スラブ段差	躯体	0.300×0.350×1.675	0.18	普通	(1.675×0.350)×2	1.17	主筋	上通し筋	D16	1.675＋0.560＋0.560	2	5.590
								0.300×1.675	0.50		下通し筋	D16	1.675＋0.560＋0.560	2	5.590
								▲(1.675×0.150)×2	▲0.50	STP		D10	1.300	10	13.000
段差	2	Y1-Y2間	スラブ段差	躯体	0.300×0.350×1.975	0.21	普通	(1.975×0.350)×2	1.38	主筋	上通し筋	D16	1.975＋0.560＋0.560	2	6.190
								0.300×1.975	0.59		下通し筋	D16	1.975＋0.560＋0.560	2	6.190
								0.300×0.350	0.11	STP		D10	1.300	11	14.300
								▲1.675×0.150	▲0.25						
								▲1.975×0.150	▲0.30						

● RC 躯体積算 － スラブ

符号	No	コンクリート 種別	コンクリート 計算式	コンクリート 計[m3]	型枠 種別	型枠 計算式	型枠 計[m2]	鉄筋 種別	鉄筋 位置	鉄筋 径	鉄筋 長さ	鉄筋 本数	鉄筋 計[m]
S1	5	躯体	1.675×1.675×0.150	0.42	普通	1.675×1.675	2.81	主筋(短辺)	上端筋	D10	1.675＋0.350＋0.350	10	23.750
									下端筋	D10	1.675＋0.350＋0.150	10	21.750
								主筋(長辺)	上端筋	D10	1.675＋0.350＋0.350	10	23.750
									下端筋	D10	1.675＋0.350＋0.150	10	21.750

Q8 合成スラブを入力するには

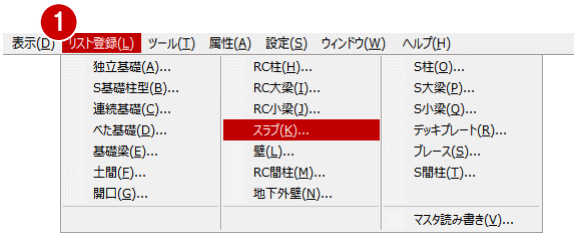
「RC+プレキャストコンクリート」または「RC+デッキプレート」のスラブを入力するには、部材リストの合成スラブを使用します。
ここでは、合成スラブを入力して、積算結果を確認する操作を紹介します。



【完成図】

合成スラブを登録する

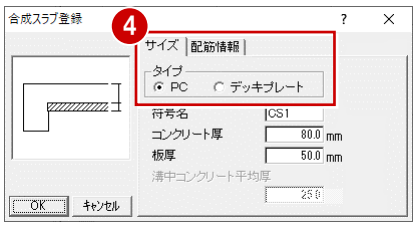
❶ 「リスト登録」メニューから「スラブ」を選びます。



❷ 「合成スラブ」をクリックします。

❸ 「リスト一覧」で未登録欄をダブルクリックします。

❹ 「サイズ」タブで、合成スラブの「タイプ」を確認します。
ここでは、「RC+プレキャストコンクリート」の合成スラブを入力するので、「PC」が ON になっていることを確認します。



❺ 「配筋情報」タブをクリックして、合成スラブの配筋情報を確認します。

❻ 「OK」をクリックします。

❼ 「OK」をクリックします。

合成スラブを入力する

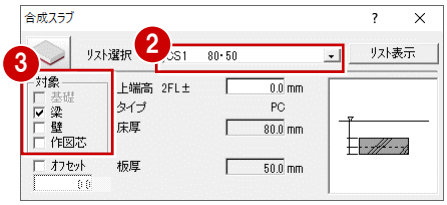
❶ 「部材」メニューから「スラブ」の「合成スラブ」を選びます。

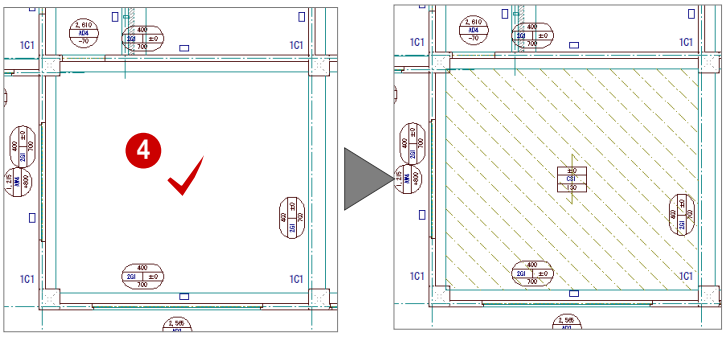
❷ 「リスト選択」が「CS1　80・50」であることを確認します。

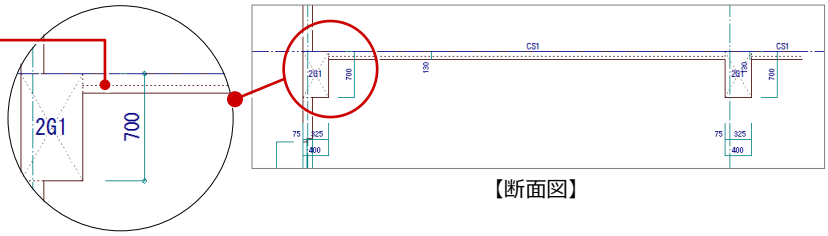
❸ 「対象」で「梁」のみにチェックが ON になっていることを確認します。

❹ 右図のように、梁間をクリックします。合成スラブと記号が入力されます。

このほかの場所にも同様な操作で、合成スラブを入力します。







スラブとプレキャストコンクリートの境界部分には、点線が表示されます。

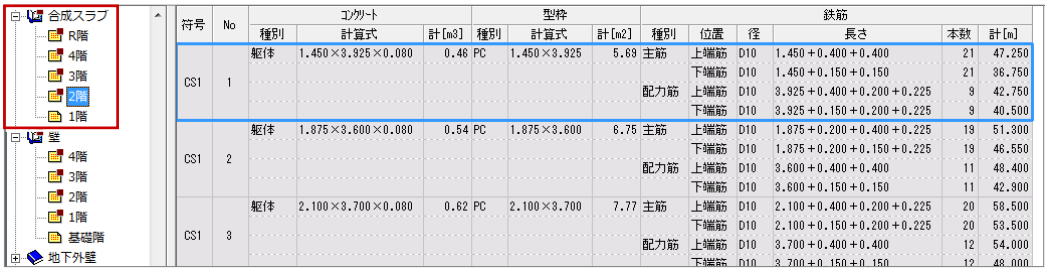
【断面図】

躯体を積算する

合成スラブを入力できたら、「RC躯体積算」を起動して、自動積算を実行しましょう。

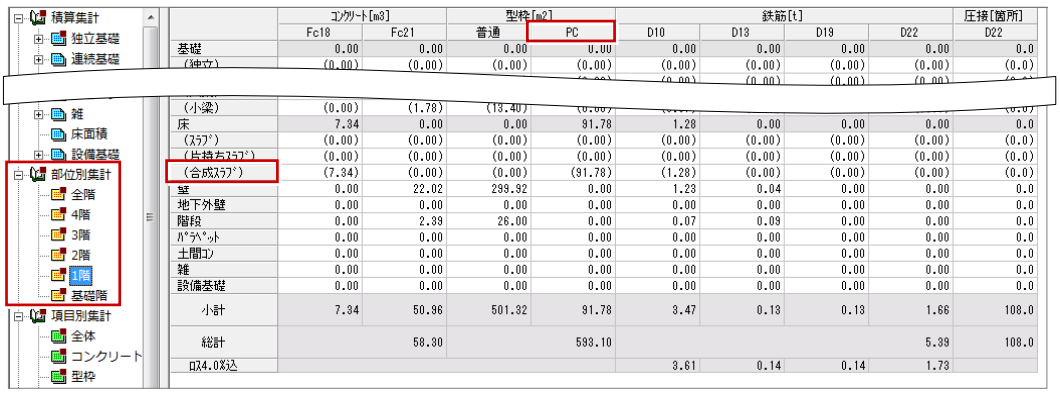
合成スラブに関連する内容は、ツリーの「合成スラブ」で確認できます。

● RC 躯体積算
　– 合成スラブ



符号	No	コンクリート 種別	コンクリート 計算式	コンクリート 計[m3]	型枠 種別	型枠 計算式	型枠 計[m2]	鉄筋 種別	鉄筋 位置	鉄筋 径	鉄筋 長さ	鉄筋 本数	鉄筋 計[m]
CS1	1	躯体	1.450×3.925×0.080	0.46	PC	1.450×3.925	5.69	主筋	上端筋	D10	1.450＋0.400＋0.400	21	47.250
									下端筋	D10	1.450＋0.150＋0.150	21	36.750
								配力筋	上端筋	D10	3.925＋0.400＋0.200＋0.225	9	42.750
									下端筋	D10	3.925＋0.150＋0.200＋0.225	9	40.500
CS1	2	躯体	1.875×3.600×0.080	0.54	PC	1.875×3.600	6.75	主筋	上端筋	D10	1.875＋0.200＋0.400＋0.225	19	51.300
									下端筋	D10	1.875＋0.200＋0.150＋0.225	19	46.550
								配力筋	上端筋	D10	3.600＋0.400＋0.400	11	48.400
									下端筋	D10	3.600＋0.150＋0.150	11	42.900
CS1	3	躯体	2.100×3.700×0.080	0.62	PC	2.100×3.700	7.77	主筋	上端筋	D10	2.100＋0.400＋0.200＋0.225	20	58.500
									下端筋	D10	2.100＋0.150＋0.200＋0.225	20	53.500
								配力筋	上端筋	D10	3.700＋0.400＋0.400	12	54.000
									下端筋	D10	3.700＋0.150＋0.150	12	48.000

● RC 躯体積算－集計
　– 部位別集計

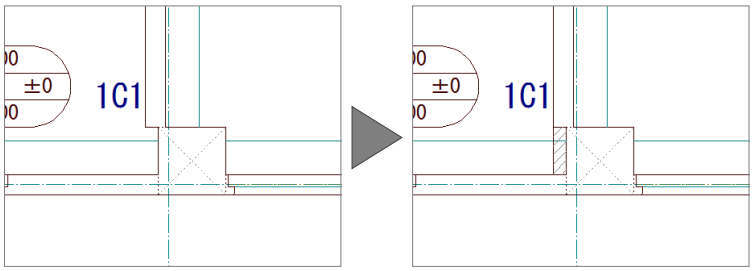


	コンクリート[m3] Fc18	コンクリート[m3] Fc21	型枠[m2] 普通	型枠[m2] PC	鉄筋[t] D10	鉄筋[t] D13	鉄筋[t] D19	鉄筋[t] D22	圧接[箇所] D22
基礎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
(独立)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.0)
(小梁)	(0.00)	(1.78)	(13.40)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
床	7.34	0.00	0.00	91.78	1.28	0.00	0.00	0.00	0.0
(ｽﾗﾌﾞ)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.0)
(片持ちｽﾗﾌﾞ)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.0)
(合成ｽﾗﾌﾞ)	(7.34)	(0.00)	(0.00)	(91.78)	(1.28)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.0)
壁	0.00	22.02	299.92	0.00	1.23	0.04	0.00	0.00	0.0
地下外壁	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
階段	0.00	2.39	26.00	0.00	0.07	0.09	0.00	0.00	0.0
ﾊﾟﾗﾍﾟｯﾄ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
土間コ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
雑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
設備基礎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
小計	7.34	50.96	501.32	91.78	3.47	0.13	0.13	1.66	108.0
総計		58.30		593.10				5.39	108.0
ロス4.0%込					3.61	0.14	0.14	1.73	

※ スラブとデッキプレートの合成スラブを使った場合、「DP」の欄が表示されます。

Q9 増し打ちを入力するには

柱や梁に増し打ちを入力するには、あらかじめ標準配筋マスタで補強筋などの配筋仕様を設定しておきます。
ここでは、柱の面と壁面が100㎜ずれている個所に増し打ちを入力して、積算結果を確認する操作を紹介します。



【完成図】

標準配筋マスタを設定する

❶ 「ウィンドウ」メニューから「標準配筋マスタ」を選びます。

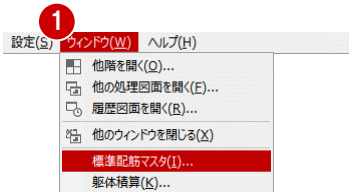
❷ 「マスタタイプ名称」で使用するマスタを確認します。
ここでは、「1：共通仕様」であることを確認します。

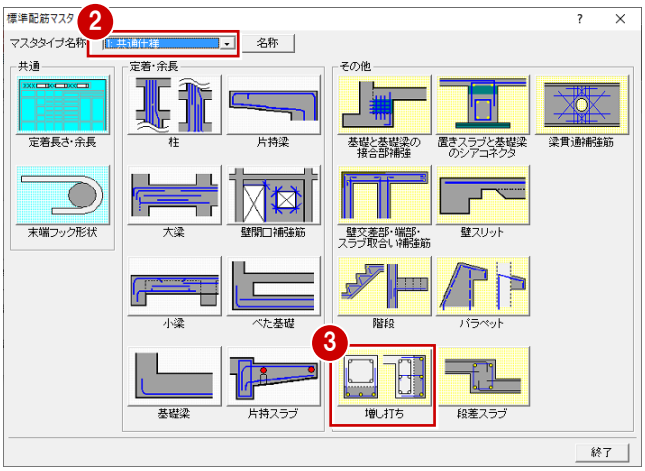
❸ 「増し打ち」をクリックします。

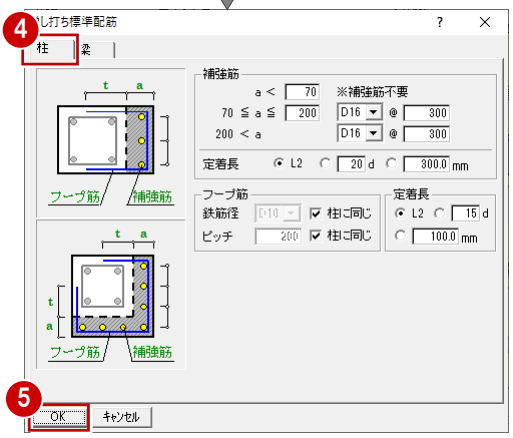
❹ 「柱」タブで増し打ちの配筋情報を確認（または変更）します。

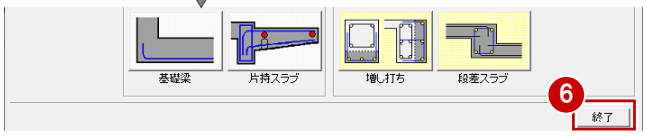
❺ 「OK」をクリックします。
「標準配筋マスタ」ダイアログに戻ります。

❻ 「終了」をクリックします。

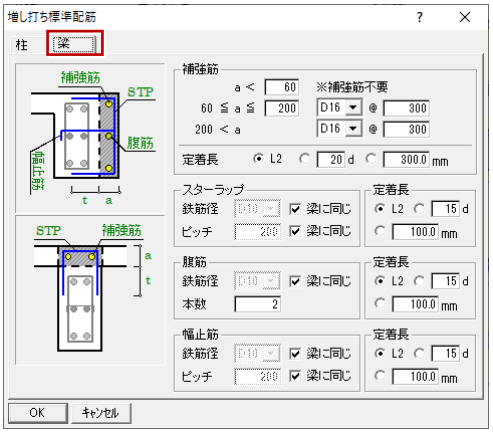








※ 梁の増し打ちの配筋情報は、「梁」タブで確認します。



増し打ちを入力する

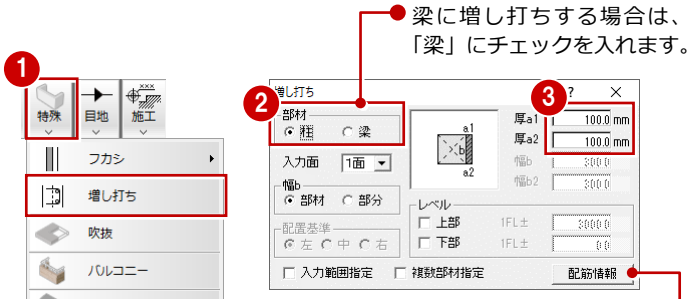
❶ 「特殊」メニューから「増し打ち」を選びます。

❷ 「部材」の「柱」にチェックが ON になっていることを確認します。

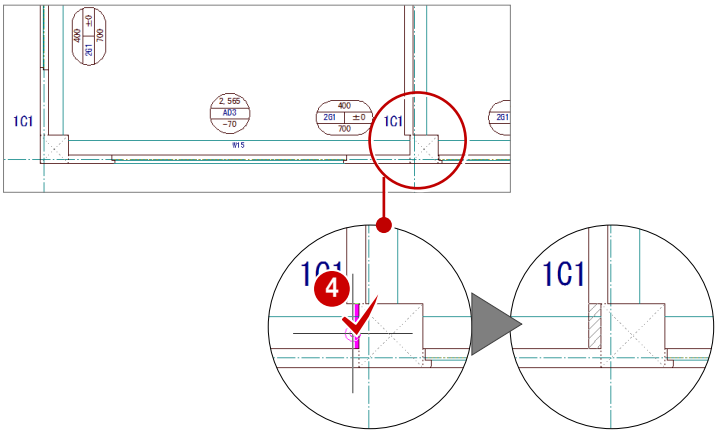
❸ 「厚 a1」「厚 a2」に増し打ちする厚さを入力します。
ここでは、柱面と壁面が 100 ㎜ずれているので、「100」と入力します。

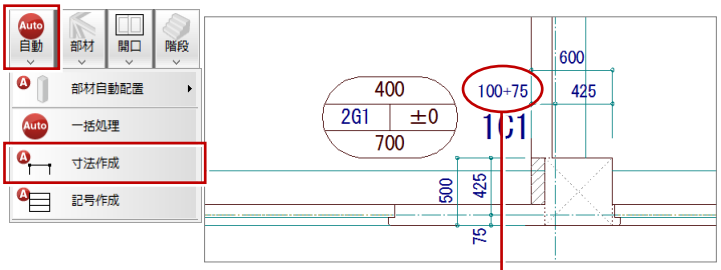
❹ 柱の増し打ちを入力する面にマウスカーソルを移動して、ラバーバンドが表示されたらクリックします。
増し打ちが入力されて、柱と壁の面が揃います。

※ 寸法線を作成すると、右図のように増し打ちを考慮した寸法が表示されます。



配筋情報の確認や設定を変更したい場合は、「配筋情報」をクリックして、「増し打ち配筋情報」ダイアログを開きます。



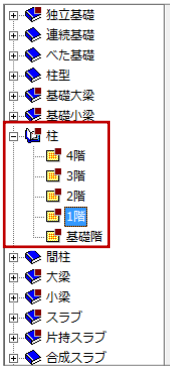


寸法に、柱の幅と増し打ちの厚さが表示されます。

躯体を積算する

柱に増し打ちを入力できたら、「RC躯体積算」を起動して、自動積算を実行しましょう。
増し打ちに関連する内容は、ツリーの「柱」で確認できます。梁に増し打ちした場合は、ツリーの「柱」で確認できます。

● RC 躯体積算
　– 柱

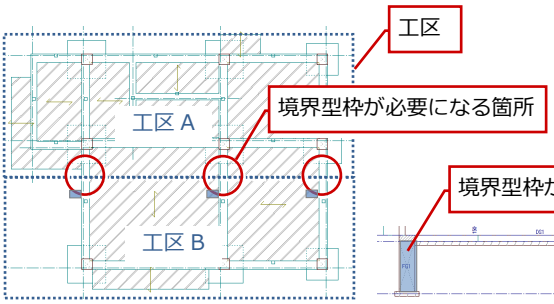


符号	No	通り	形状	コンクリート 種別	コンクリート 計算式	コンクリート 計[m3]	型枠 種別	型枠 計算式	型枠 計[m2]	鉄筋 種別	鉄筋 位置	鉄筋 径	鉄筋 長さ	鉄筋 本数	鉄筋 計
C1	1	X1-Y1通り	矩形	躯体	0.500×0.500×3.400	0.85	普通	(0.500×3.400)×4	6.80	主筋	通し筋	D22	3.400	8	27
										HOOP		D10	2.000	28	56
										HOOP(仕口)		D10	2.000	5	10
C1	2	X1-Y2通り	矩形	躯体	0.500×0.500×3.400	0.85	普通	(0.500×3.400)×4	6.80	主筋	通し筋	D22	3.400	8	27
										HOOP		D10	2.000	28	56
										HOOP(仕口)		D10	2.000	5	10
C1	3	X1-Y3通り	矩形	躯体	0.500×0.500×3.400	0.85	普通	(0.500×3.400)×4	6.80	主筋	通し筋	D22	3.400	8	27
										HOOP		D10	2.000	28	56
										HOOP(仕口)		D10	2.000	5	10
C1	4	X2-Y1通り	矩形	躯体	0.500×0.500×3.400	0.85	普通	(0.600×3.400)×2	4.08	主筋	通し筋	D22	3.400	8	27
				増し打ち	0.350×3.400×0.100	0.12		(0.500×3.400)×2	3.40	HOOP		D10	2.000	28	56
										HOOP(仕口)		D10	2.000	5	10
										増し打ち(主筋)		D16	3.400+0.560+0.560	3	13
										増し打ち(HOOP)		D10	0.550+0.350+0.350	35	43
C1	5	X2-Y2通り	矩形	躯体	0.500×0.500×3.400	0.85	普通	(0.500×3.400)×4	6.80	主筋	通し筋	D22	3.400	8	27
										HOOP		D10	2.000	28	56
										HOOP(仕口)		D10	2.000	5	10

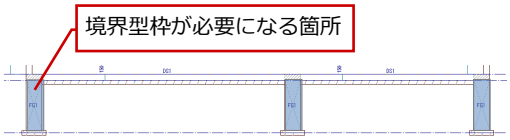
Q10 打設順を考慮して境界型枠を積算するには

コンクリートの打設順があるとき、複数の工区に分けますが、工区ごとに数量を出すため、工区間の境界部分の境界型枠が、両方の工区に拾われないようにする必要があります。

ここでは基礎階（独立基礎）を例に、工区に打設順を設けて、境界型枠を積算する操作を紹介します。



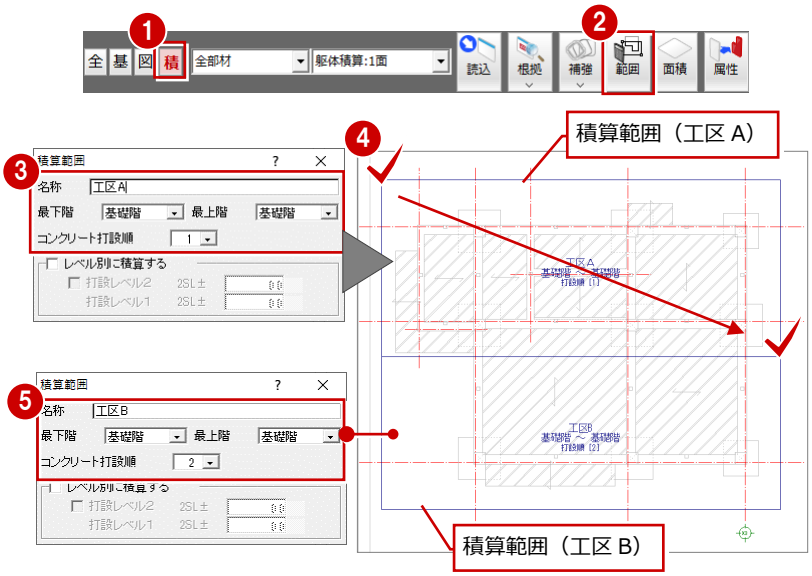
【基礎階】



【工区 A・B の境界部分の断面図】

工区・打設順を設定する

1. RC 躯体図の基礎階を開いて、「モード切替（積算）」をクリックします。
2. 「範囲」をクリックします。
3. 名称、積算する階、打設順を設定します。
4. 積算範囲（工区）を入力します。
5. 同様に工区 B を入力します。



【基礎階】

専用初期設定を変更する

積算範囲を設定できたら、「RC躯体積算」を起動しましょう。

まず、自動積算を実行する前に専用初期設定を開いて、境界型枠の種類を設定します。

1. 「設定」をクリックします。
2. 「専用初期設定」をクリックします。
3. ツリーから「使用材料」を選びます。
4. 「積算範囲境界（打継面）」で境界型枠の種類を選択します。
   ここでは、「特殊 1」に変更します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。

躯体を積算する

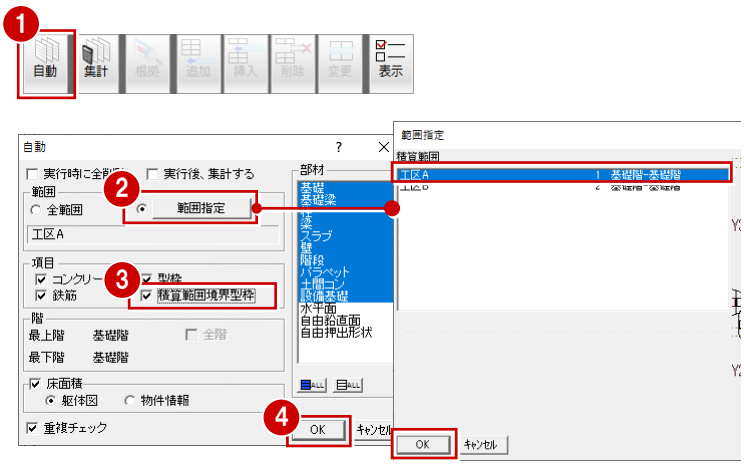
境界型枠の種類を設定できたら、自動積算を実行しましょう。

❶ 「自動」をクリックします。

❷ 「範囲指定」のチェックを ON にし、「範囲指定」をクリックして、設定した工区を選びます。

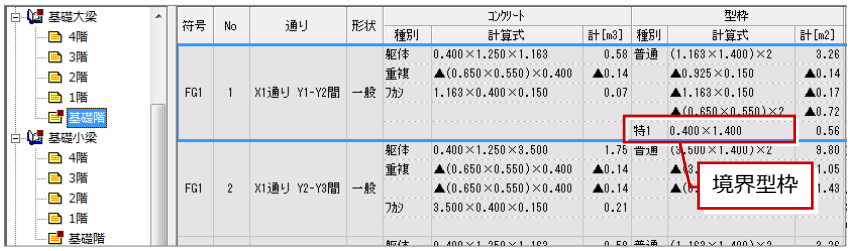
❸ 「積算範囲境界型枠」のチェックを ON にします。

❹ 「OK」をクリックします。



※ 同様な手順で、他面を開いて工区 B の範囲を積算します。

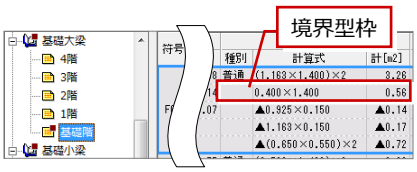
● RC 躯体積算 － 基礎大梁



境界型枠の積算について

隣接する積算範囲を参照して、打設順が早い積算範囲に積算されます。この場合、境界型枠は工区 B には積算されません。

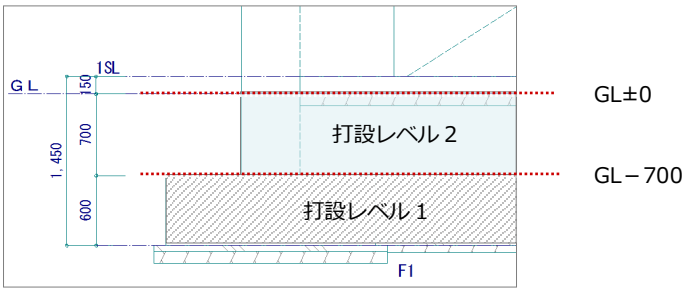
前ページの「専用初期設定を変更する」の操作で、「積算範囲境界（打継面）」の設定を「普通」にしていた場合、下図のように「種別」が「普通」で集計されます。



● RC 躯体積算－集計 － 基礎大梁

Q11 打設レベルごとに基礎を積算するには

右図のように、基礎のコンクリート数量を、コンクリートの打設レベルで分けて積算するには、工区を設定する際に打設レベルを設定しておく必要があります。
ここでは基礎階を例に、打設レベルを設けて積算する操作を紹介します。



【基礎断面図】

工区・打設順を設定する

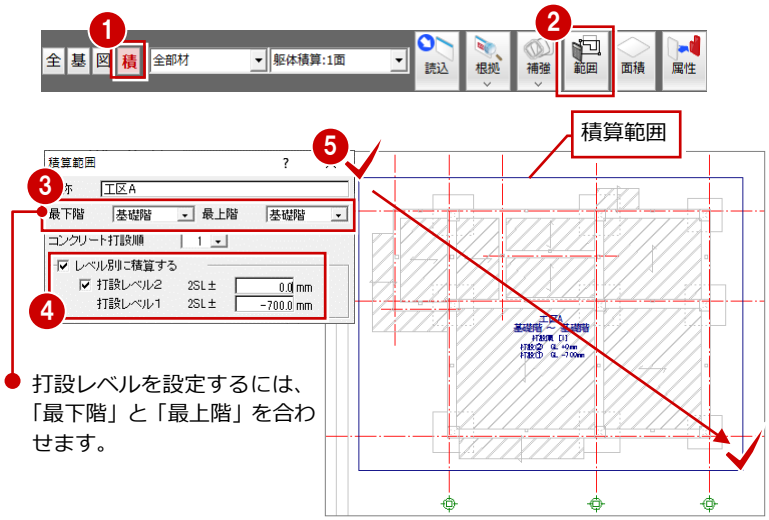
❶ RC 躯体図の基礎階を開いて、「モード切替（積算）」をクリックします。

❷ 「範囲」をクリックします。
「積算範囲」ダイアログが開きます。

❸ 「最下階」「最上階」を「基礎階」に変更します。

❹ 「レベル別に積算する」にチェックを付けて、打設レベル 1、2 を設定します。

❺ 積算範囲を入力します。



打設レベルを設定するには、「最下階」と「最上階」を合わせます。

【基礎階】

躯体を積算する

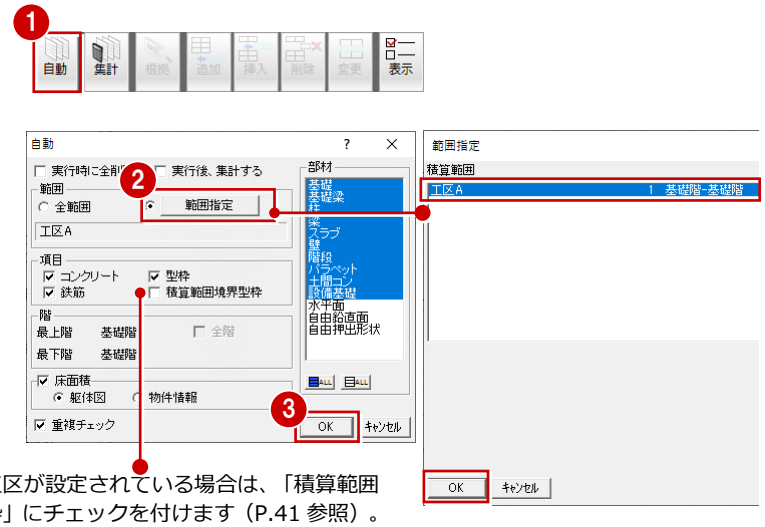
積算範囲を設定できたら、「RC躯体積算」を起動して、自動積算を実行しましょう。

❶ 「自動」をクリックします。

❷ 「範囲指定」にチェックを入れ、「範囲指定」をクリックして、設定した工区を選びます。

❸ 「OK」をクリックします。

※ 複数の工区がある場合は、同様な手順で、他面を開いて別の工区を積算します。



複数の工区が設定されている場合は、「積算範囲境界型枠」にチェックを付けます（P.41 参照）。

● RC 躯体積算－ 基礎大梁

設定した打設レベルごとの積算結果は、ツリーの「区間」で確認できます。